表したのち、出迎えの記者団に

学してからでなければ何もいえ 日本の原子力開発については見 という意味のステートメントを発

きることは幸福である。 と原子力に関する経験を交換で

技師から次第に進みマルル・キュ

ルマン研究所で研修終了。鉱山

▼ハインツ・L・クレケラー委員 ドイツ人、一九〇六年七月二十日

年二月二日ユーラトム総裁。 ォンドノール章を受く。一九五九

ールマン社とエチル・キュールマ

ン化学会社の総務となる。戦争中

ン)に生る。一九三〇年ベルリン ボットロープ (ヴェストファーレ

Ę

官、同年ユーラトム委員会渉外局

五八年在オーストリア大使館参事

士。一九三七年外務省入り、一九ーマに生る。ローマ大学法学博 局長 イタリア人、一九一三年ロ ▼エットーレ・スタデリーニ渉外

厅技術部長、一九四九年同庁次長、 五年軍需委員長、一九四六年企画 は自由フランス軍に参加、一九四

七~五〇年北ラインヴェストファ

会第二院議員、

一九四八~四九年

ったん民間会社に就職後、一九四 大学で学位 (理学博士) 取得。

表団に参加、一九四六~四八年国 年国際連合およびILOの政府代 ント州議会議員、一九四五~四八 一九三九~五八年ノルト・プラバ 学博士。一九三六年弁護士開業、 ナイメーヘン・カトリック大学法 スヘルトーヘンプッシュに生る。 オランダ人、一九一一年九月八日

▼ウィルヘルム・ザール技師

۲

官房長 ドイツ人。

▼ハンス・ラウテンシュラーゲル

四日パリに生る。一九二四年キュ

フランス人、一九〇一年一月二十

▼エティエンヌ・ヒルシュ総裁 |

一九五二年同庁長官となる。レジ

▼エマニュエル・サッセン委員

五八年一月ユーラトム委員。 五年五月在米特命全権大使、一九 年七月在米臨時代理大使、一九五

> トム委員。 体代表具、

一九五八年一月ユーラ

で

略歴は次のとおりである。

とのたび来日したユーラトム総裁E・ヒルシュ氏ほか両委員らの

総裁と両委員らの略歴

ューヨーク駐在総領事、一九五一

ーレン議員、のち外務省に入りニ

| 海外領土相、一九五二~五八年国 会第一院議員、欧州石炭鉄鋼共同

授内田秀雄、東工大助教授高島洋

諸氏が委員として参加する。

験所電力部長山田太三郎、東大教 研究員山崎文男氏。ほかに電気試

JRRー4は原研が遮蔽研究のた

をきめた。この部会長は理研主任 をするため新たに第四部会の設置

語言の出た JRRー4の安全審査 **査会は十月二十四日、原研から申**

翌三日は午前十一時日航機で関西

と語り宿舎帝国ホテルに入った。

して行くことを希望する。

も原子力平和利用の協力を推進 力協定をしている。今後日本と 英、カナダ、ブラジルなどと協 ない。われわれはこれまで、米、

に向い、新三菱重工を視察したの

出迎えた。ヒルシュ総裁は

こんどユーラトムと親善関係に

ある日本を訪れて、池田、小

坂、三木三大臣や原子力関係者

を見ることは私どもにとってた

れしい。また日本の原子力施設 とお会いできることは非常にう

いへん重要なことである。日本

電話(591)6121~5

振替東京5895番

に一般裁ら一日来日

原子力施設などを祝察する。なお日本原子力産業会議では六日夜、 ある。約一週間政府の資客として滞在、池田首相、小坂外相、三木 田に到着した。乗機LH機が途中香港で故障して乗り換えたためで ッセン両委員、スタデリーニ渉外局長ほか二名を伴い、日航機で羽 予定よりやや遅れて八時五十分、同共同体委員会のクレケラー、サ ヒルシュ・ユーラトム(欧州原子力共同体)総裁は十一月二日夜、 赤坂のプリンスホテルに一行を迎えてレセプションを開く。 原子力委員会その他原子力関係首脳者らと会見するほか、 一おりである。

西村両原子力委員、下田大使、杠 しの夜空港には三木国務相、石川、

原子力局長ほか内外関係者多数が ち神戸、大阪両市を観光して京都 に入った。その後の日程は次のと

隆寺などを見学。 ▽五日=京都市空観光後帰京。 原燃両理事長も出席する。 ▷四日=桂離宮、 るが、これには菊池原研、高橋 マ六日=原子力委員会と会談す ▽七日=東海村原研、日立製作

▽八日=総裁と両委員は皇居を 所視察、東海クラブで昼食。

羽田空港でステートメントを発表するユーラトム総裁

左から=サツセン委員、ヒルシコ総裁、三木国路相、クレケラー委員

六日原産でレセプション 鹠、 奈良法

六氏来日まで

いで本年春在ベルギー大使がユー 委員が同共同体を訪問したさい、 協力関係は、昨年十月石川原子力 ラトム常駐代表に任命され、 るかどうかで意見を交換した。つ 術者の交流など、技術協力ができ 原子力開発に関する情報交換、技 【解説】わが国とユーラトムとの 捏

オランダ機でサッセン委員と渉 ス機でヒルシュ総裁、十日朝十 離日予定は、九日朝十時フラン と官房長、同午後十一時五十分 時ドイツ機でクレケラー委員

貝は単なる国際機関の職員ではな く、独自の政策を決定したり推進 の接遇をすることになったもので られているので、諸大国の首相級 したりできる閣僚級の権能を認め

直接には池田氏の招き

道関係の会見などがある。とれ 育相、外相との会見 『年鑑』の資料でお願

協力をお願いいたします。

介された。また各国代表の 機関関係者からその優秀さ

もすこぶる好評であった。

なお調査表は、とりあえず従来

きびしいものが一のリニアックによるR上の製造一「沸騰水型原子力路電所の動物性」(調定=原研住田健二氏、同兒月)

外局長、技師らが出発する。 ŧ

両室あて御連絡下さるようお願 は、日本原子力産業会議調査企 どを年鑑に掲載御希望の向き

いいたします。

ラトムの特殊な性格から、その委 なお今回の来訪に対しては、ユー で公式日程を終了する。

向もあり総裁とする。 で委員長としたが関係方面の意 【注】ヒルシュ氏の職名を前号

原子力委員会は十月二十五日、再処理専門部会の専門委員に、原電技術部研究課長浅田忠一、原歴東海関鎮所次長浅田弥平、原研理事で加、三氏はいずれも他の専門部会で、三氏はいずれも他の専門部会がある。

開発体制とその内容、業績、設 鑑」の編集資料として、全国の 日本原子力産業会議ではただい 備等につき、十一月末日締め切 大学、国公立試験研究機関、団 体、会社などに、原子力の研究 昭和三干七年版「原子力年 新しく掲載を希望の向きも十一月末日までに

原子力関係の研究開発、業績な ましたが、そのほかにも新しく の調査実績にもとづいて発送し

の緊密化がはかられてきた。 りでアンケート調査をしており ますから、会員各位の特別な御 昭和三十六年十一月

日本原子力産業会議

炉心部は縦横各五百ず、高さ六百

四号炉安全審查 欧米に出張したさいヒルシュ総裁 さらに六月池田前原子力委員長が 今回の訪日となったのである。 らと会談、協力関係の促進につい トム首脳部の日本招待を提案して の理解を深めるため、まずユーラ て意見を交換したが、その時相互 ク、散乱実験用実験孔、ガンマ線 おもな実験装置としては、プール である。熱中性子束は一千KWの にして四・五鈷、MTR型の燃料 るが、その所要量はウラン二三五 源装置、水平実験孔、ガンマファ とき炉心平均十の十三乗になる。 デで、九〇%

濃縮ウランを使用す 内でも可能である。 ができ、低出力運転は第二プール に第一プール中央でも高出力運転 移動できる。とのため定位置以外 シリティー各一基があり、炉心は |基 (第一、第二) リド・タン

今月末施工者決定

兼任になる。

安全審査会に第四部会

原子力委員会の原子炉安全専門審しめ、現在建設中のJRRー3の南 方百
が
に
設置する
遵縮
ウラン
軽水 あげようとする点に特色がある。一月から整地に遵手する。 低下(夏期表面で三十度)したと 冬期プールの水温が二十度以下に 型)で、熱出力一千KWであるが きには、最高三千KWまで出力を 減速冷却型(スイミングプール 原研のJRR-4は現在、三菱原 業者を決定する。また安全密査は 川崎重工業、日立製作所五社から これと平行して行なわれ、来年一 いるが、十一月末までに入札して 出された仕様書で技術審査をして 子力、日本原子力、住友原子力、 JRR-4・来春盛地 八日設置されてから、使用済燃料 八日設置されてから、使用済燃料 対を検討してきたが、今後審議を 進めるには、現在設置されている ホット・ケープの取扱い、原電ー を検討が重要になってきたので、 な検討が重要になってきたので、 再処理専門部会は一昨年一月二十

提供した機器は各国に好評

船舶局長に藤野

=高橋国際協力課長のIAEA総会みやげ話=

高橋国協課長

総会後九日から一週間、機関の原 子力船運航者責任条約案の十四カ 氏が十月二十四日帰国した。氏は 原子力局国際協力課長高橋正太郎 会に政府代表代理として出席した

☆10九月二十六日から十月六日ま →国常設委員会に出席、ならに帰途 ウィーンの国際原子力機関総

の国際研修を視察したが、旅行中 唱したわが国のアジアRIセンタ 三木原子力委員長が機関総会で提 一設立に関連して、カイロでRI ドルフのIAEA研究所に見学 旅行をしたが、ととに備えつけ ていた。機関総会五日目の三十 国関係者から非常な好評を受け 力して贈った原子力機器は、各 原子力機関の技術援助計画に協 わが国の原子力産業界から国際 出席各国代表がザイベルス 十一月一日発令した。

の見聞を次のように語った。

会館) 議 第七セッション打合せ会十一 月十三日午後一時三十分 委員会十七日午後二時(蔵前工業安全特別研究会 第八回地霞小 日米原子力産業合同原子 原子動力研究会

運営委員会二十日午後一時三十分 (電力経済) 電気グ

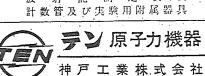
原子力産業の フロンティア

会に三氏追加 再処理専門部

原電、原燃、原研から

業 品目

プ応用機器 1 - <u>-</u> 制御装 子 炉 חל י 子 裝 制 御 動 測定装 射 能 114 放





テン1000進法スケーラー SA・230型

本社· 抻 戸 市 兵 渾 区 和 田 山 通 1 電 6 5081 (大代表) 支社・東京都沿区芝田村町5-9 (浜ゴムビル内) 亚 (501) 8 4 3 1 (代表) 営業所・大 灰・札 幌・仙 台・名 古 屋・広島・福 岡

| 庁船舶技術部長藤野淳氏を決定、| 長水品政雄氏の後任に、海上保安| 運輸省はこのほど辞任した船舶局 船舶局長に藤野氏 これらの問題に直接関与している トップ技術を結集

原産だより

科子加速接置 ンデクラナゴ

州大学理学部に、一九五八年一月に一MVの 試験所に納入し、 ものを東洋レーヨン株式会社に、同年三月に 「MV(IIMV最大)イオン加速装置を電気 好成績をおさめています。

東芝は原子力機器に於ても多くの輝かしい成 果をおさめています。 九五七年秋にわが国最大の六MVのものを九 バン・デ・グラーフ式粒子加速装置では、一

東京芝浦電気株式会社

元人口で位置

7

京学者 有機 一個 でんきゅうんだすがい

大學與一一學解釋器三個內籍四十一學生 黑 三個國子 乃至 一切,其意語

恐衛 以本行

実施によって、みずから記録を行

①対象となる者=計量管理制度の

今後核原料物質または滅声

計量管理の対象

核燃料問題懇談会=あ

があり、種々懇談した そのあと一、三の質問

のち、午後四時散会し

計量管理の意義

制に関する法律」(以下「規制法」 物質、核燃料物質及び原子炉の規 体的問題について説明

めた計量管理制度についての解説のアウトラインである。 くわし 計量管理制度が実施されることとなった。以下は原子力局でまと される。とのため「原子炉等規制法」の改正が行なわれ、新しい れに関する国際 約束の履行上厳密な 計量 管理制度 の確立が要求 核燃料物質、核原料物質等については、その平和利用の確保とこ

くは原子力局核燃料課にお問い合わせ願いたい。

課長田中好雄氏が所有 最後に原子力局核燃料 について」 説明があり

方式の決定経緯など具

ック・アンド・ウイルコックス、

会社にしぼられるのは、大会社で

燃料懇談会開

造視察回団員占開勝義氏の講演原子力産業構占開勝義氏の講演 なければ当面の赤字に耐えること

軍工業局電機通信機課長吉開勝義氏を招き、講演をきいた。 察報告書を作成中であるが、原産では十月三十一日開催の第 原子力産業構造専門視察団はさる七月渡米、約一カ月間にわ たって同国の原子力産業の実情を視察して帰国した。現在視

であり、第二のグループはバブコ ウェスチングハウス、アリス・チ このうち第一のグループはGE、 けではなく、産業構造の点からみ マーマースなどの頭電機メーカー ーも現在では七社になっている。 **〒年前に十社あった原子炉メーカ** とを自分の意見を交えながらのべ だはっきり方向づけられているわ てもその実体をつかむことは困難 2発展していくだろうかというと ある。ただ将来どのような方向 国の原子力産業といっても、ま」コンバッション・エンジニアリン 原子炉メーカー ている。このように炉の開発が大 子力と取り組んでいる。 グのようなボイラーメーカーであ ら二億五千万が~四十億がに達し がに及んでおり、生産額からみて 社で、投資額は九千万が~十五億 これらのメーカーはいずれも大会 の転換と電力としての魅力から原 を進めている。また第三のグルー の将来性という観点から炉の開発 る。これらはいずれも原子力発電 プはゼネラル・ダイナミックス、 ノースアメリカンのような飛行機 メーカーで、これらは航空機工業

ることにする。

は、各社がそれぞれ独特な炉を開 さらに炉メーカーで特徴的なこと うなところが見受けられない点で 発しており、他社のマネをするよ

燃料問題について

将来化石燃料が枯渇してとき、ど 示しているかというと、一つには なぜ電力会社がこのように熱意を

ピーク時には一億七千万がを貸し

るという確信で投資をしている。

メーカーの作ったテストリアリタ 料の専門メーカーは、主として炉 に作っているようである。また燃 自社で開発した炉に合わせて独自 ガーがやっているのか関心をもっ いるのかあるいは燃料の専門メー - 用の燃料を作っているようだ。 しいたが、だいたい炉メーカーが 総料の加工は 炉メーカーがやって ある。

日本原子力産業会議では、十月二 | 会、原子動力委員会、経済委員

原産の四委員会が合同で

燃料問題懇談会を開いた。これは

十六日午後二時から東京会館で核

を中心に、原子燃料問題特別委員

貝長大屋敦氏のあいさつがあった

のち、原子力委員石川

質の一部民間所有認可

一郎氏から「核燃料物

計量管理の確立期す

原子炉等規制法の改正により

委員会から約五十名が出席した。

この日はまず原子燃料問題特別委

よる懇談を目的としたもので、各

会、法制委員会の四委員会合同に

料物質の所有形態についての説明 さきに閣議了解が行なわれた核燃

> て系列化ということは全然問題に 本、技術、労働などの援助はほと 産分野を広げる意思はまったくな んど行なわれておらず、したがっ ある。しかも下請会社に対する資 く外部から質おうという考え方で いようである。つまりいい物を安 のの、その内容はかなり限定され ができないからである。 -- に外注しており、自社製品の生 また炉を生産しているとはいうも ど炉の心臓部に限られている。そ ている。つまり燃料とか制御棒な 一どんな研究をしているか、またそ の採用の仕方などをこまかく調査 は自分では研究をやらず、どこで る場合は下請契約者になる、とい 炉メーカーが主契約者になってい 電力会社にかわってプロジェクト めに盛んな勉強をしている。 て有力な会社は主契約者になるた う三つの形がとられている。 そし 発電への参加の仕方としては、 の会社と同じような形で、 なる ②発電所の主契約者になる ③ マネージャーかコンサルタントに 広範囲に仕事をしている。 原子力 建設業者について

る。このことは炉メーカーや燃料 的実力であり、技術的実力であ るかどうかは実力次第というわけ している。つまり主契約者になれ 者になるんだという自信を生み出 メーカーについてもいえることで である。その実力というのは経済 している。こうした勉強が主契約

ఫ

火力に太刀打ちできるといってい

に何の差別もつけず、従来の大

AEC当局の語るところでは、

宗教、身体的条件

非常な積極性をもっており、スロ ーダウンどころか若干計画が進ん 米国の電力会社は原子力に対して

一方炉メーカーの生産設備をみる一でも政府でも一九六八年には在来 点については民間でもフォーラム でいるように見受けられた。この 電力会社について るようになるが、自由産業の立場 っておけば、どうしても政府がや 政府との関係で、原子力開発をほ なくなるということ。もう一つは うしても原子力にたよらざるをえ

また設備は運転五年後には社伝に

燃料の保証は政府がしてくれるし

このように貸し出し易い理由は、

転換できるという事情があるから

である。つまり安心して金が貸せ

からそれをきらったためである。

チェス・マンハッタン銀行をみ一るわけである。 金融関係について

告の義務が課されている。 方昭和三十三年十二月には日米

質および滅速材などについては、 る原子炉、核原料物資、核燃料物 これらの協定によって供給を受け 月には日加原子力協定が成立し、 に加盟し、引き続いて三十五年七

国も国際原子力機関(IAEA) され、昭和三十四年三月にはわが いや核燃料物質についての生産量 および日英原子力一般協定が締結

③平和的利用のための需要をこえ 米協定を例にとれば 定相手国により相違はあるが、日 入優先権およびその指定する貯蔵 る特殊核物質についての米国の購 ①原子炉等の設計審査②計量管理

ある。さる昭和三十六年三月の第 の内で重要な部分を占めるもので などであり、計量管理は保障措置 施設への寄託④査祭⑤管轄外移転

ることとなる。

および九月三十日付の関係規則の 三十八国会における規則法の改正

た。ここでは原子力にかなりの関 いる。彼らの考えでは、原子力に は金を出しても必らず返えってく 心を示しており、また勉強もして 一力協定における保障措置の一環を るところは原子力基本法に明示し ている平和利用の確保にあり、 なすものであるが、その目的とす

z

者、原子炉設置者、核燃 者ならびに許可を受けた 法に基づき指定を受けた 社、日本原子力研究所そ

こんど実施に移された計量管理制 れを立証する措置といえる。 管理制度の内容 たは許可を受けてない者に には保管を委託された者は、

すべて国において把握されること 使用する者の保有する物質の国内 用する者の記録および国への報告 許可あるいは使用許可とあいまっ 記録と報告である。これによって な計量と在庫および増減の状況の 要求される事柄は前記物質の適切 減速材について、それぞれを使 制物資である核原料物質および 度は、核燃料物質ならびに国際規 て、平和利用の確保が裏づけられ をその内容とするものであるが、 になり、規制法の事業指定、事業 における有り高および増減状況が 図対象となる物質=計量管理の対象となる物質に、核燃料物質である核原料物質と国際規制物質である核原料物質とは、現在では米国またはカナタからそれぞれの原子力協定に基づいて購入したウラン精鉱等である。国際規制物資である核原料物質としては、現在では米国またはカナタからそれぞれの原子力協定に基づいて購入したウラン精鉱等である。国際規制物資であるる減速材としては、現在では米国から日米原子力は、現在では米国から日米原子力は、現在では米国から日米原子力は、現在では米国から日米原子力は、現在では米国から日米原子力は、現在では米国から日米原子力は、現在では米国から日米原子力を表している。 報告を行なう必要はない。 ていて、規制法に規定する記録やで実際に核燃料物質等を取り扱っ 許可者において計量管理 開発段階にあるように見受けられ

発段階を出ているとはいえない いる。しかしこれとても試作、開 ーア・コーニングをみたが、ここ

動強化に伴って各部に生じた技

会(AEC)は核安全部門の活 ころによると、同国原子力委員

術者の空席に悩んでおり、この

り出したと 充運動に乗 ほどろの補

必要な技術

なり広範囲 者数は約八 学などのか 下名である

五千がとなっている。 おり、年俸は八千がないし一万 にわたって

ウイーンで国際原子力機関の総会が行なわれた機会に、ソ連とインドとの間の原子力研究協定がり連代表エメリヤーノフ原子がり連代表エメリヤーノフ原子がり連代表エメリヤーノフ原子が分類でした。 るほか、ウラン探査および採鉱者の訓練のための施設を提供す ン、プルトニウムを研究用に提て少量の天然ウラン、濃縮ウラで、ソ連はインドに対したもので、ソ連はインドに対したもので、ソ連はインドに対してもので、ソ連はインドに対してもので、ソ連はインドに対している。 供することになっている。 に関しても援助を与える。 する条項がふくまれている。

学、学会、広告募集などによる る希望者はAEC人事部に照会 採用ルートのほか、関心を有す

を入れて補充キャンペーンを行 するよう呼びかけており、本腰 全部門に向けられる予定。 なっている。採用者の大半は安 灯ブイの光源にスト

最近アメリカから伝えられたと

マーチン社に引き渡したが、こ 90の四万五百キューリー線派を 究所はこのほどストロンチウム アメリカのオークリッジ国立研 れはアメリカ沿岸警備局の灯ブ ロンチウム90を利用

との灯ブイの電源はスト チウムの放射線を利用した

力電池で、熱電方式を利用 何の保守作業の必要もない るようになっており、二年 電池(十二茂、五八)を元 コンバーターによりニッケー 子力研究協定調印 ソ連=インド間原 間学番 く学ジ

迅速かつ確実に! 55 ケ国余にサービスしている

THE RADIOCHEMICAL CENTRE, AMERSHAM ISOTOPE PRODUCTION UNIT, HARWELL

英国原子力公社

ラジオ・アイソトープ

* Processed isotopes

* α . β . γ -ray sources * Transuranium elements

公認 代理店

*Reference & Standard sources * C14 H3 Labelled compounds * RaD-Be. Po-Be neutron sources *Tritium & Deuterium loaded targets

*Irradiation Units & services ――カタログ御送附致します エ・ア・ブラウン・マクファレン株式会社

東京都中央区銀座2-3 電話東京(561)5141-5 大阪市東区今極4-1 電話北浜(23)0727



議題は成果発表で 原船協憲シンポジウム 船体の基礎研究を主題に

討論のテーマは主として「原子力 原子力船研究協会の「第三回原子力船シンポジウム」 は十月三十 姿託費による研究成果の一部について行なわれたものである。 である。 こんどのシンポジウムは主として昭和三十四年度の研究 原船協は過去三年半に約二億円を登して得た研究成果を、すでに 職題の発表とこれに対する討論があり、

午後四時すぎ終了した。 でおり、

西ドイツから

開発研究の

提携を申し込んできているほど 一十七編刊行発表したが、とくにその船体の基礎研究は最も進ん 日午前十時から東京丸の内の日本工業クラブ大会堂で開会、六 当面するあらゆる条件、あらゆる

要がある。このため原船協は三十一る。主催者は兵庫県、神戸市、神 その頻度分布などを正確に知る必 とづく最大の速度や振幅の大きさ 体運動、同調振動、衝撃などにも ず船舶の受ける外力、すなわち船 なければならないが、それにはま 海象に対して安全、確実に作動し 町の大丸デパート五階で「生活を 十一月七日から神戸市生田区明石 豊かにする原子力展」が開催され

神戸

開

会

生活を豊かにする原子力展

関する研究」で、ほかに「原子炉

遮蔽計算コードに関する研究」

(青木敏男氏ほか) があった。

影響に関する研究」と「原子力船 船における外力の原子炉に及ぼす

における原子炉周辺の船体構造に

原子炉はそれを載せる原子力船の

をしたが、との試験研究の結果は 四年度の研究委託費で動揺加速度 次のように発表された。 の実船試験と系統的実船振動試験 ▼航行中の動揺および振動にも一に対する原子炉の防護、局部的集

る実船試験―川崎重工業原子力 船所技術研究所第二研究室広渡 ▼系統的実船振動試験—日立造 課長川岛栄一氏

とづく加速度の実態把握に関す

見は、原子一つけられている含は、原子の耳公一国際影響が及いなる。

原子炉周辺の船体構造である。し で、格納容器、区画の構造、外力 きびしい条件に制約されているの 比しとくに考慮しなければならな かし陸上プラントと違って幾多の い点は、原子炉の防護、すなわち また原子力船の構造で、在来船に

能に関する試験研究、座礁に関す 用した格子状平面構造の耐衝撃性 きつづき、高張力を外板として使 究をした。なお三十五年度にはひ 船体構造の一体化に関する試験研 器と船体構造の一体化に関する試 る二重底構造の試験研究、格納容 験研究などの実験をしたが、これ り試験研究の結果は次のように四

▼座礁時における二重底強度に 設計部技師山形俊介氏 関する研究=三菱日本重工造船 関する研究=新三菱重工神戸造 船所長付重満通弥氏、同造船設

| 戸商工会議所、兵庫科学技術セン

育委員会、日本科学技術振興財団

計所技師内藤良二郎氏

ム・スケジュールを審談、

今月末

理調査団の報告書を中心にして行

原子力委員会から派遣された再処

討論会」を開いた。これはさきに プルトニウム開発に関するパネル 町の電気クラブで「燃料再処理と 午後一時三十分から、東京都有楽 日本原子力学会では十月二十五日

談会、日本原子力平和利用基金が 関西地方本部、原産関西原子力懇

中心にして構成し、大阪の「生活

この展覧会は地元の特別出品物を

鼠

理調查回報告書 | 実費販布

推進委員会で、これに県と市の教 ター、兵庫県原子力平和利用PR

▼高張力鋼外板の耐衝撃性能に

して決定した。ついで今後のタイ ついて審議、これらを了解事項と

多い。このため原船協は三十四年 中応力を受ける原子炉や二次遮蔽 に理論的には解決できない問題が の支持構造などを設計するにあた 部として、耐衝突構造に関する研 度の研究委託費で、このうちの一 っては不明の点が多く、その上単

造に関する試験研究、格納容器と 格納容器と一次遮蔽の支持構

亦の運営方針を決定して個々の問前十時からホテル日航で開会、議 第一回の小委員会は十月三十日午一般けた。 たのち、小委員会の作業と手順に 特別な事情について意見を交換し として、東海村とその周辺地帯の 小委員会の審議の前提となる事項 題点の具体的な密議をした。まず

▼格納容器と船体構造の一体化 船所設計部技師堀浩一氏 に関する研究=三菱造船長崎造

委に小委員会 施設地帯整備 三十日ホテル日航で開催

るが、これを効率的に推進するた 現の方策などについて検討してい 題や整備計画の内容、整備計画実 設地帯の整備に関する基本的な問 地帯

形備特別

表員
会は、
原子力

施 日本原子力産業会議の原子力施設

め、このほど十二名の小委員会を 男、勝田市長安義男、 再処理開

開発特別委員長鈴木一司、 原子力開発協 議 会 顧 問後藤武

造、東電社長木川田一隆、原電 県知事岩上二郎、茨城県原子力 郎、原産常任理事橋本清之助、 池正士、原 燃 理事 長高橋幸三 社長安川第五郎、原研理事長菊 茨城原子力開発協議会長渡辺覚 都市計画協会長飯沼一省、茨城

茨城

業経

一までに意見をとりまとめて本委員 会に報告することとした。小委員 成子の他から活発な発言があり、 成吉、吉岡俊男両氏、三変原子力 高橋修一郎氏、電力中研高橋実氏、 高橋修一郎氏、電力中研高橋実氏、 高橋修一郎氏、電力中研高橋実氏、 高橋修一郎氏、電力中研高橋実氏、 同五時散会した。 理事今井美材氏

、東海村長

ネル討論会 調査団の報告を中心に

発で

告知板

種の会合としては珍しいほどの盛

いる。参加者百二十余名で、この 処理に付随する問題点を説明して 技術の現状②再処理の経済性③再 の現状と動向を概説し、①再処理 なわれたもの。この報告書は各国

会

原子力事情連絡懇談令

況であった。講演は

氏④プルトニウムの開発=原燃 ①総論=東工大教授(調査団長) 処理=原子力局次長井上啓次郎 究員山本寛氏③原子力発電と再 大山義年氏②再処理技術の現況 (各国別の特徴) =原研主任研 ◆入会 株式会社昭和起重機関作 (55) 二二一~五)は十月二十七 (55) 二二一~五)は十月二十七 日日本原子力産菜会 識に入会。 今代表者変更 原産会員中国電力 株代表者変更 原産会員中国電力 株式会社長桜内乾雄氏をそれぞれ 運転と社長桜内乾雄氏をそれぞれ

堤を岸から200粒沖合までつきだし 向かって幅約30な、深さ約3な掘る。 この準備が整うとあとは静穏な日をまつばかり。

5月ごろの適当な日を選んで沈設が始まる。指令 空水路のドックに海水を注入すると鋼管は浮上する。 日立港に待機している船団が一斉に沖合に到意、ワイ で曳航する。鋼管が所定の位置に齎くとブイに水 を注入し、管体は海底に沈む。作業はすべて日役まで に終わる。2本目も同様である。

沈設された鋼管にはキセルのガン首のような取水口が 取りつけられ鋼杭とコンクリートでしっかり海底に定 着される。また陸上の水路部分はただちに仕上げには いり、38年5月ごろに完成する。

> 原子力がどんなにわれわれの生活 原子力を平易に解説するとともに 模型、写真、パネルなどを配列、 四百五十平方がの会場に、実物、 セットからも適宜選び出して、約 と結ぶ原子力展」や基金の展覧会

印刷で刊行、実質で販布される

ろまでに希望者をとりまとめて んすることになり、十一月中ご

ことになった。この報告書は燃

いる。

しかし販布実費は未定。

かいくいいくいくいくいくいくいくいくくく

瀬真一、気象庁観測部長川畑幸

処理調査団の報告告が、近く本

再処理の実際を調査してきた再

で、原産技術者發成課であっせ

され、欧米各国で五十日間燃料

iuの四月原子力委員会から派退

料サイクルの確立に、重要な役

目を果たすものと思われるの

希望者を原産でとりまとめる

十二日まで続開する。

ため、船による作業が困難であるばかりでなく、掘っ が超大核爆発の実験をしたため、 ◆…十月二十三日と三十日、ソ連 わが国にも多量の放射性降下物が

あるものと見て、これに関する各 省庁の局長クラスに随時協議させ ることとした。これは放射能測定 臨時の放射能対策本部を設け、 科 する報道、勧告、指導、その他放 関する研究の強化、 学技術庁長官を本部長とし、関係 政府は三十一日の閣議で、内閣に 機関の動きが相当活発であった。 分析の充実、人体に対する影響に 放射能に対応

【東海発電所の海洋取水工電突場】

原電東海発電所では復水器冷却用水を直接鹿島灘から

取るので、直径2 な半もある2本の鋼管を沖合約50

最初の試みというので、その成果が注目されている。 鋼管は4なの短かい管として現場に運び、陸上部の空

水路で溶接したのち、その背中に1本あたり22個の長持ちのような四角な鋼製ブイがとりつけられる。 一方海底掘削の工事は岸から沖合200位までの浅い

い方は大型浚泄船を使うが、浅い方は波が高く砕ける

その先500粒までの深い部分とに分け、深

官細谷喜一、科学技術庁事務次 武夫 副本部長 — 内閣官房副長 ▽本部長=科学技術庁長宮三木

> 近の放射能降下状況について関係 午後四時すぎ首相官邸で開き、最 ◇…この第一回会議は十一月一日

次のとおりである。

密にするためで、このメンバーは

室長江守堅太郎、科学技術庁原 官鈴江康平>本部員=内閣審議 、射能発表を統

岡千仭、大蔵省王計局長石野信 長久保忠雄、外務省国連局長鶴 子力局長杠文吉、防衛庁装備局 文部省大学学術局長小林行

務局長增田盛、運輸省官房長広 厚生省公衆衛生局長尾村偉

の放射能調査と核種分析を強化 をとる。②調査、分析の成果発 表や対策は原則として本部で

一 するため関係省庁は必要な措置

な「注意線量」をきめる。

内閣に臨時の対策本部

対策を協議、次のようにきめた。 当局の説明を聞いたうえ、今後の このほか放射能測定法の統一につ 検討してからする。 の中央機関でするか、 の形式をとる。また発表は各省庁 を使う場合には「マイクロキュリ ることにした。このためカウント ュリーやマイクロキュリーを用い は原則としてマイクロマイクロキ (カウント) 一以またはCC」

いても審議したが、これは次のよ 採取時間は二十四時間とし長期 てから測定する。図落下チリの

など

◆…これよりさき二十四日、 統一する方法について審議、今後 放射能観測の結果を、わかり易く 関からまちまちに発表されていた 能調査各省連絡会はこれまで各機 放射

▽放射性降下物が外部に付着し ▽放射性降下物が外部に付着し たものは簡単に落せる。雨や雪 にまじって直接皮膚や葉菜、果 物などについたものは水洗いす ればよい。▽降り始めの雨水は 使わず、強い放射能のある天水 や川水は砂や活性炭素でこすこ 的注意事項を発表した。

投 資 信 託

投資。御相談なら 公 價

お申込次第説明書進呈

本店 東京・日本協通り1ノ1 支店 全国主要都市

効果的なビタミン補給に

V.B₁10mgをはじめ13ビタミン・12ミネラル高単位配合



384 · 1004 · 2504 高単位語合ビタミン類 30錠 100錠 250錠 ミネヒタール ミネヒタール小児用 60錠 200錠 100g ミネビタール 25g

的(放射線)計測とがあげられる。 所で用いられた一般工業計測と核

一般工業計測は、自動制御のため

れも全製造工業の生産指数よりも ると、次の表のようになり、いず

ついて説明してみよう。

計測制御の種類は、従来火力発電

水またはガス入りバルブ、毛管対、抵抗温度計、バイメタル、

の流量を測る場合にオリフィス

ベンチュリーの圧力計、

磁気流

シールドの温度で、装置は熱電

原子力発電における計測・制御に

料

制御棒、冷却材、減速材、

炉内各チャンネルおよび全クー

ラント、制御棒クーラントなど

造工業の生産指数とを比較してみ

い。六社の生産指数と米国の製

上回っている。

の装置工業における技術革新によ

一般製造工業よりも伸びが著

十億岁の政府投資の三・五%を計

に仕上げる構想であるが、十年一

装費率とすると、七千万がの市場

っであるが、いずれもこと数年来

ミネアポリス・ハネウエル社の六 イラー・インストルーメント社、 ノルトン・コントロールズ社、テ ノースラップ社、ロバートショウ

よって、PWR、BWR、GCR、

がの政府原子炉の開発費の支出に

OMR等を実用、経済的な動力炉

よると、毎年一億八千万が~二億 Cの民間動力炉開発十カ年計画に

生産指数の比較

定対象と測定装置は次のとおりで 使用等を包含するもので、その測 用の超短波受信、工業用テレビの 用のテレメータリング、通信連絡 の電子回路、電力需給、給電操作

圧力(滅速材等)の場合、装置

は圧力計、ブルドン管磁気、ポ

位置などを測るときは、レベル 原子炉のゆがみ、使用済燃料の 量計、回転計、電磁流量計。

型ブルドンである。

高度の信頼度要求される

計測

制御

1958 1959 1960

測定対象が温度の場合は測定点

100

大本をおんがよやすでは経過しまませい様でと異様は後ま・11

事を行い あるかいしゅんし 45、 新世界である。 東京というでは、 のでは、 のでは、

髓 12

13

1

都

1

その企業内容、業績および原子力 寄与が顕著である六社について、 られており、また原子力開発への

開発上の役割について既略紹介し

クスボロー社、リース・アンド・

このうち原子力発電関係は、

されている。

アンド・ポーター社、フォッ

との六社というのは、フィッシェ

器メーカーのうち、わが国にも知 米国におけるオートメーション機 エレクトロニクス企業に限ること 原子力発電の制御、計測に関する

| 分野の伸び | 著しい生産

著し

ノーカーも少なくない。ここでは

に密接な関連を有するエレクトロ

スを棄薬している、いわゆる総合 またメーカーにしても、GEやウ れている場合とがあげられる。 ション機器がプラントに組み込ま ・スチングハウスのように重電機 カーであってエレクトロニク 動力炉のようにオートメー 1 (#1931)

このような生産の伸びを促した要 を軸とする需要の拡大にある。 以上の成長率で伸びることが期待 年には一九五八年の三倍以上に達 れを上回でものと推定される。ま 六億三三四百万がで、六一年はこ するものと推定され、毎年一〇% た今後の生産の予想は、一九七〇 九六〇年における計装需要は、約

所ある。

が開けることになる。このほか、

ーメーション装置を製造。

[11]

なわれるものとみられるから、こ 政府の電力会社による実用

てくることと思われる。 として、次第にクローズアップし ーは、原子力産薬の有力な担い手 んごオートメーション機能メーカ 各社の企業 内容と業績

業内容と業績を紹介しよう。 ではここで六社について、その企 ▽フィッシー・アンド・ポーター

▽フォックスボロー社

調に、売上高は上昇している。

①一九四二年に設立され、五四年 に、ディジコーダー社。と、エレ **②あらゆる液体とガスを測定、制** クトリカル・デベロップメント社 を吸収、五六年には「アンドリュ 雪する面積式流量計を主体に発達 ス・グラス社』を合併。 ンスツルメント社。で、一九〇七 カンインスツルメント社 を併合 年に創立、一九〇九年に "アメリ スポロー社。を設立した。 転、一九一四年に『ザ・フォック し、工場をフォックスポローに移 ①前身は "インダストリアル・イ

測定、制御の計器類、パルプ関係 〈製品、データ処理装置、オート 片の塩素調節装置および精密ガラ た会社で、濃度調節、液体密度 流体成分形、圧力、温度の ②紙、パルプ、化学、石油、ガス、

チューセッツ州)にある。

度、液位等の指示計、記録計、調等 ③工揚はフォックスポロー(マサ 織物、食品工業用の温度、圧力湿

ドリウスグラス社、カナダフィッ ④子会社として、アフター、アロ | ③工場はペンシルバニア州に二カ シャー・アンド・ポーター社を有 イスティルカーステング社、アン ⑤最近の菜績は、一九五三年の売 六百九十二万がに伸び、その間順 上高七百六十一万がが、八年後の 九六〇年には、約二・三倍の千 ⑤最近の菜績は、 スツルメントS・A(メキシコ、 %所有)、ネーデルランド・フォ ロー社(全株所有)、フォックス ④子会社は、カナダフォックスポ 上高約二千万が、一九六〇年には 五一%所有) 五〇%所有) グラフィカス・イン ックスボローN・V(オランダ、 ボロー・ヨーキシャル(英、五〇 五千四百万ドルに伸び利益も四・ 一九五三年の売

①一八九七年に創立。 ▽リーズ・アンド・ノースロップ 社中最高の伸びを示している。 四倍に伸びた。売上、利益とも六

合わせたコンピューティング・ロ 装置などを製作。 ガーおよび電気式の自動汽罐制御

タ処理装置、LGPー三〇と組み 用指示計、記録計、調節計、デー ②電気測定器およびプロセス工業

染をテーマとしてとりあげた。 **最近関心の高まっている放射能汚** 立一周年を記念して開いたもので

放射線量=立大教授田島英三氏 桧山義夫氏②人体が受けている ①環境・食品の汚染 = 東大教授

である。

ルで開かれた。これは同協会が創 午後一時から東京銀座のガスホー

って次の諸氏がそれぞれの専門に

回科学講演会」が十月二十八日

③工場が二つと中央研究所があ ースロップ・カナダ社 (全株所 ④子会社は、リーズ・アンド・ノ

にきき入る姿が見られた。

らず約二百人の聴衆が参加、 当日はあいにくの雨天にもかかわ

まず東大名誉教授中泉正徳氏が、

伝研究部長中尾善雄氏 正氏④遺伝への影響=放医研遺

有)、リーズ・アンド・ノースロ

⑤殷近の業績は、一九五四年の売 利益率の高い自動汽罐側御装置等 ップ・イングランド社。 上高が三千三十二万が。七年後の 1○%の伸びにとどまっているが 九六〇年三年五百八十五万がと

約二倍に増加した。 の売上げが上昇したため、 マロバートショウ・フルトン・コ ントロールズ社 利益は

れぞれ研究所を所有している。・

このほか東部、中央、西部に、そ

①前身のフルトンシルホン社は、 トン社と合併した。その後に教社 一九〇四年に創立。二六年にフル サーモスタット、ベ 五十万がと約四○%の伸びを示し コにあり、このうちカナダとメキ ア、ブラジル、イタリア、メキシ 千六百万が、五九年には七千九百 シコは、全株式を所有している。 ⑤業績は、一九五三年の売上高五 ており、利益は二・一倍に伸び ④子会社はカナダ、オーストラリ

振動検出警報器と水晶用恒温槽、 ローズおよび静電容量型レベル計 助調節装置、 ② 温度、 圧力の 自動制御装置、 自 を合併し、こんにぢにいたる。 ①一九〇七年に創立され、、商業 ▽テーラー・インスツルメント社

量を電気に転換して検出するもの

用の温度計、高度計、血圧計、

しているとのこと。 原燃の出願は昭和三十三年

ス・スキャン・ログと呼ばれるデ 圧力制御用バルブおよびトラン の温度計、ダイヤ・コラムモータ・ ンパス、雨量計、風速計機工業用

西独に全株保有の子会社をもって ③カナダ、英国、オーストラリア、

シンチレーション・カウンタのよ

一子束、アルファ線、ベータ線、ガ 放射線計測の対象になるのは中性 を生じさせて行なっている。また 子のイオン化によって、中性子ま 出はアルファ、ペータ線は荷電粒 たはガンマ線は間接的にイオン化 られないものである。 放射線の検 工業計測では、その値いをおさえ ンマ線などであり、これらは一般 測定する場合は、電極間電導率 測定、比重計などを使う。

メーション機器メーカーに限られ る企業は、同国でも有数のオート 原子力発電所の計装を行なってい この分野に関心を有し、あるいは

④最近の業績は、海外の子会社の

のが原子力発電における計測制御 とのように核的計測制御と工業計 である。したがって米国において 測制御が混合し、広範な制码対象 と高度な信頼度を要求されている

②工場は、ロチェスター(ニュー 用の工業計器を製造している。 -タ処理装置、グラフィック計装

体制を

放射能汚染めぐって



特別講演する中泉正徳氏

マイクロスイッチ、電子計算

①各種の工業計器、空気調管

ギュレータ社

▽ミネアボリス・ハネウエル

で本社を大幅に上回っている

ඉ

え、利益は約百万がで、利益

製造品目は広範囲に及んでいる。 軍需用各種制御装置の製造等その

②子会社も、カナダ、英国、

주 조

-デン、ニュージーランド、

氏の司会で「放射能汚染」をめぐ 演したのち、放医研所長塚本窓南 「原爆後遊障害について」特別講 ツ、デンマーク、オーストラ ツ、デンマーク、オーストラリアス、ベルギー、フランス、西ドイ

四億二千六百万%と約二倍 上一億一千四百万が、 〇%の上昇、利益は逆に約 ③最近の業績は、一九五三年 度調節装置の売上げが減っ 軍需用が増加し、利益率の 下がった。これは、利益率 た。六〇年は、死上げは対

原 燃 か らも

初の公告特許

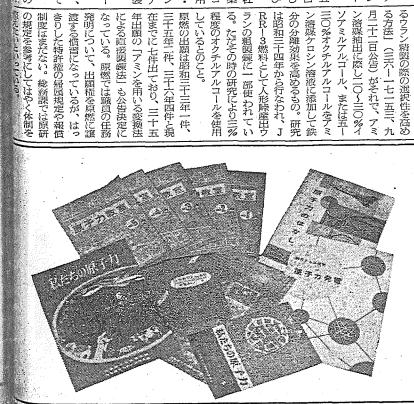
③工場は、ノックスビル(テネシ

-州)など六ケ所にあり、さらに

クロセン・システム)の製造販売 プロセス用電子式工業計器(マイ

航空機用、ミサイル用の制御機器

は昭和三十四年から行なわれ、J は昭和三十四年から行なわれ、J は昭和三十四年から行なわれ、J 大郎和三十四年から行なわれ、J は昭和三十四年から行なわれ、J は昭和三十四年から行なわれ、J を成っただその時の研究による一窓 大郎和三十四年から行なわれ、J は昭和三十四年から行なわれ、J は昭和三十四年から行なわれ、J を表し、一七一五三、九 一七一五三、九 一〇%オクチルアルコールをアミンを用 シ溶媒がロシン溶液に添加して鉄 分の分離効果を高めるもの。研究 は昭和三十四年から行なわれ、J は昭和三十四年から行なわれ、J を表して人形峠産出ウ ランの粗製錬に一部使われてい る。ただその時の研究により三%



いわたくしたちの原子力教室。

(全12分冊 ☆印は既刊) ☆第1分冊 原子力入門編 (30円) ☆第2分冊·核分製編(25円) ☆第3分冊 原子炉の原理編 (30円) ☆第4分冊 原子炉材料編(30円) ☆第5分冊 研究用原子炉編 (30円)

第6分冊 発電用原子炉編 第7分冊 動力利用編 第8分冊 放射能編 第9分冊 アイソトープ編

第10分冊 加速器編 第11分冊 核融合編 第12分冊 世界の現状編

*私たちの原子力。(30円) ***原子炉のはなし。(20円)** "原子力のはなし" (50円) 、原子力発電のはなし、(50円)

日本原子力平和利用基金 刊行

東京都港区芝田村町1-1 日本原子力産業会議内 TEL (591) 6121



日本原子力産業会議会長ら幹部と 発の実情を視察した。

また一行は **丁燃料公社を訪れ、原子力研究開** 『東海村の日本原子力研究所と原 一ーラトム総裁一行は茨城県那珂

裁一行に対し、日本の原子力平和 三木原子力委員長はユーラトム総

組織権限などの問題を相互に通報

のとした。

視察して得た日本の近代産業の発 は日本の代表的産業施設の若干を た。これらの接触を通じて、 する諸問題について意見を交換し

関する研究開発、工業利用、保健

とユーラトムは原子力平和利用に 子力委員の非公式訪問以来、日本 非公式訪問と、それ以前の石川原 池田前原子力委員長のブラッセル

どんな協力がなされるかはいまい

うわけにはいかない。まずお互が

安全問題に関する相互の活動と計

画、ならびにそれぞれの機構上の

を視察するよう公式に招待した。 対し欧州を訪れユーラトムの施設 の名で三木委員長と原子力委員に ヒルシュ総裁はユーラトム委員会 置をとるべき旨を明らかにした。 約の規定する手続に従い適当な指

われわれのユーラトムは独裁制で 知り合うことから始まるだろう。

はないから何をやるかは機関には

と進んだときにきめることで、 くかは、将来これらの研究がもっ

在の段階ではまだいえない

展についての印象をさらに深いも

第197号

昭和36年11月15日

毎月3回(5日、15日、25日)発行 1部7円(送料不要 1年分前金200F

昭和31年3月12日第三種写便物認可

明を発表した。

日共同でおおよそ次のような声 国の原子力委員会は、十一月八 ユーラトムの訪日委員団とわが

<u>一</u>行

協力のための協定発意

利用面における活動状況について

三木委員長は日本とユーラトムと

便宜を与えるとともに、日本原子 の最近の情報を得るためあらゆる

の合同会議に終日を置した。 力委員会とユーラトム総裁一行と

ム総裁一行はこの発意を歓迎し、 いとの希望を表明した。ユーラト 力のためできれば協定を締結した の間の原子力平和利用に関する協

ユーラトム委員会はユーラトム条

だろう。

共同声明にある三木原子力委員長

が実現するだろう。

の協力協定を希望した件について

原子力委員会がユーラトム委員団と共同声明

一懇談し、原子力の工業的利用に関

日本 発行所

東京都港区芝田村町1の1(東電旧館3階)

電話(591)6121~5

席者は、まず米フォーラムのウ すでに来日の决定したおもな出 [会長を初めロビンス事務局長、 マッキューン、シスラー、スタ

エルズ国際部長、トレメル産業 ピットマン原子炉開発部長、ウ 上下両院合同原子力委員長ほか 理。それにホリフィールド米国 開発部長、ベック規制部長代

ン・ゼネラルダイナミック社長、[キスタン原子力委員会長1・H 社原子力技術担当取締役、ジョ ライクリー・エバスコサービス ・ウイルコックス副社長、デビ ュリー・バブコックス・アンド ングハウス副社長総支配人、キ シソン副社長、ロス・ウエスチ **人リン・コンモンウエルズ・エ** あった。 ド原子力省書記官代理R・ P・ユーゴー氏が決定し、

> 事が有利にできるようにしてやる をできるだけよい条件にして、仕一

ことを目的としているのであって

これによって原一力発電の建設を

欧州原子力産菜会議、ユーラ

識にはユーラトムからも代表が多

本 一九五二年に設立された鉄鋼石炭 まって、ヨーロッパ合衆国をつく るための皮膚であり、相当政治的 なものである。現在ユーラトムは 産業界の便宜をはかり、これに援 助を与えている。現在ユーラトムは 度業界の便宜をはかり、これに援 しては加盟各国の各種の規制を統一 させようとしている。また活動の側面 では加盟各国の各種の規制を統一 は、原子力発電の将来に対 して見通しを立てているが、これ は計画ではない。 われわれとして は、原子力の経済性を得る時期は 一般にいわれているほど速いもの だとは思っていない。現在の理想 としては、二十年後の関係地域の でんうと考え、その四分の一を原 だとは思っていない。現在の理想 だとは思っていない。現在の関係地域の でんうと考え、その四分の一を原 だとは思っていない。現在の関係地域の でんうと考え、その四分の一を原

と思う。十二月の日米原子動力会 ラトムとが直接連絡をとることだ よい方法は、日本の産業界とユー

加するから、こうした場で大いに

の出席が期待されている。 なお次の諸機関からも会長など 業会議、

るが、海外からの出雨者はすでに四十余名を決定、なお参加 米双方のスピーカーはほぼ内定、発表論文も到消し始めてい はいま、準備に最後の追い込みをかけている。討議内容や日 会議所ビルで開かれる「日米原子力産業合同原子動力会議」 内外の期待や集めてきたる十二月五日から四日間、東京商工

通知が続いているので、総数は七十名に達するもよう。

ハー、ウエブスター正副両一ー三理事。米国原子力委員会の一また米園産業界からは、ホフマ一炉局長H・カートライト氏、パ

日米原子動力会議出席

貝、ラミー事務長がある。 ザント三下院議員、グラハム委員長代理ピエール・バリガン氏、 アスピナル、ウエストランド、

ス・ベヒテル副社長などの来日 がきまっている。

米国以外の海外原子力関係機関 からは、国際原子力機関事務総 英国原子力公社工菜動力用原子

ロフ氏からは考慮中との連絡が 原子力委員会物理冶金課長了。 ・ウスマニ氏、南アフリカ連邦 イン

日本とユーラトムとの協力に一番

グ、オランダ、イタリア、ベ ルギー、スイス各国原子力産 トム、独、仏、ルクセンブル

ム総裁原産と懇談

似ているので、大いに情報の交換 る。とくにヨーロッパとは状況も と協力し、英国から炉を買ってい

を進めたい。これまでは個人的な

報の交換をやって見たい」との発

ヒルシュ・ユーラトム総裁

ヒルシュ総裁は九日

からはもっと組織された形で、情

ベースで行なわれてきたが、これ

をもっている」

原子力委と懇談

電の分野ではことによい友人がな れわれは友人が欲しい。原子力発 ついで一本松原電副社長から「わ

いと困難である。われわれは米国

ヒ氏・わが産業界に提

電をやううとしている点で共通し 共に商業ベースに乗った原子力発 か」と質問したのに対し、ヒル ている。日本はどのようなことで たのち「わが国とユーラトムは、 長のあいさつ後、まず嵯峨根原電 懇談会は大屋副会長の司会で菅会 | おきたい。 その一つは原子力発電 ユーラトムの計画に、参加できる 官務から原電の性格などを説明し 先だって約一時間、原産ではユーラトム側と懇談会を開いた。 プリンスホテルで開催した日本原子力産業会議のレセプションに臨 は、翌六日原子力委員会と会談したのち、午後五時から東京赤坂の 十一月五日午後関西から帰国したヒルシュ・ユーラトム総裁一行 夏、産業界その他の原子力関係者など約六十名出席したが、これに んだ。このレセプションには三木原子力委員長以下各委員、原産役 ゆくことの能力を身につけておく 業界が原子力発電計画に着手して が経済性を達するまでの間に、産 は経済性ある原子力発電をもたら ことが必要である。一九七〇年に な、そして困難な問題を処理して おくことが必要であるということ である。とれによって非常に広範

シュ総裁から直接連絡をとること 重要な問題点のあることをいって ヒルシュ総裁「私はまず二つの での一般的な工業分野でよりも進 題点は、原子力の分野ではこれま すことができると思う。第二の問 歩が速く、しかも要求される材料 次のように語った。

なってしまうであろう。

整し援助するものである。たとえ 加盟国で行なわれている開発を調 に責任を持っているのではない。 ば燃料の供給とか資金の調達など

なければ、将来どうにもできなく すぐに手をつけて、開発しておか ユーラトムは原子力発電所の運転 うことである。これは今からでも 十万KWを開発し、これによって ば、一九八〇年までに四千二百二 また瀬藤日本原子力社長から「ユ

一 セン、クレケラー両委員は十一月 イン、クレケラー両委員長ら金原子力委員と懇 研所長らも傍聴のため出席した。 懇談の内容は相互から原子力平和 想談の内容は相互から原子力平和 機したものである。 なおヒルシュ 検したものである。 なおヒルシュ

で交歓する菅会長(正面左)とヒルシュ総裁……

のような説明があった。 必要電力の三分の一をまかなうこ に進捗しているのか」と質問した とになっているが、現在どの程度

しては研究開発が仕事のすべてで クレケラー委員「ユーラトムと

一理解を基盤

ヒルシュ総裁らが記者団と会見

発が短い期間に非常な発展をして 制約があるようだから将来は原子 動力源を使用することにいろいろ いることを知った。日本では他の 者団と会見したが、質問に答えて 十一月八日科学技術庁長官室で記 ヒルシュ・エーラトム総裁一行は 力発電に頼るところが相当大きい ヒルシュ総裁「日本の原子力開 てるには十分にディスカッション 条件によってコストに幅ができて ている。しかし経済性は他の動力 源との比較できまることだから、 経済性については十分確信を持っ することが必要だから、これから くる。石炭の輸送に不便なところ 下田常駐代表を通じて十分接触し て相談するととになるだろう」 クレケラー委員「原子力発電の

ユーラトムの加盟各国ではいまい では、きわめて近い将来に経済性

八時三十分(ホテル日航) (日本工業クラブ四階) 第十一回理率会 二十四 第三回財務委員会 十十 原子力国内事情幹事会

縮ウラン型と、どちらに重点をお を進めている。天然ウラン型と潤 ろいろな型の原子炉について開発

原子動力研究会 電気グループニナタ(電力経済)遮敝サブクループニ十一日午前十時(同)化学工学サブクループニ十一日午後一時三十分、放射化学サブクループニ十一日午後一時三十分、放射化学サブクループニ十分「会局材料研)材料工法サブクループニ十八日午後一時三十分、成型加工サブクループニ十八日午後一時三十分、成型加工サブクループニ十八日午後一時三十分、電気グループニ十九日午後一時三十分、電気グループニ十九日午後一時三十分、電気グループニ十九日午後一時三十分、電気グループョ(歳前工学三十分、電気グループョ(歳前工学三十分、電気グループョ(歳前工学三十分、電気グループョ(歳前工学)

それぞれ羽田発帰任した。 原産だより





最も信頼できる

東芝。放射線測定機器

●256チャンネル超多重波高分析器 ●放射線エネルギー分布直記装置

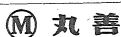
●シンチレーション カウンタ 各種 ●ハジド・フット・クロースモニタ ●各種サーベイメータ ●ポケット線量計・ポケットチエンバ

●各種フード・グロープボックス

東京芝浦電気株式会社 東芝放射線株式会社 本社 東京都中央区銀座7の5 電話代表(571)5571・6171 支店営業所 全国主要都市36カ所

丸善の洋書御案内・・・・ 新刊・新 着 書 Chandrasekhar, S.-Hydrodynamic and Hydromagnetic Stability. (The Internatl. Ser. of Monographs on Physics) '61. 692 p. (Oxford U. P.)... ca ¥ 6, 300 Dickerman, P. J. (ed.)- Optical Spectrometric Measurements of High Temperatures. '61. viii, 268 p. (Univ. of Chicago Pr.) Drummond, J. E.- Plasma Physics. '61. xiv, 386 p. (McGraw)...... 5, 000 Linhart, J. G.-Plasma Physics. 2nd rev. ed. '61. 278 p. (North-Holland) ca 3,000 Radiation and Waves in Plasmas: The fifth Lockheed symposium on magnetohydrodynamics. Ed. by M. Mitchner. '61. (Stanford U.P.)ca 1,800

東 京 ・ 日 本 橋 都内出張所・丸ビル T 階 渋谷 東横・新宿 伊勢丹



電話東京(271)大代表2351 报替東京5番

次出力上昇試験を始めた。 同部の 管理部ではこの十三日から、第二 らつやく入手できたので、研究炉 第一次燃料の残り三本が十月末 なんらかの支障が 第一次出力上昇試験をおこなった が、このときは熱出力が小さかっ たので熱的なデータよりもフラッ 回研究成果都直会猜么 ことし三月に千器を目標とした

一次上昇試験

次出力上昇で三千粒を目ざして 7体制は幼なかったのか。 第二 しえていけないほど日本の原子 いるいま、これにからまるいく

陥は発見されたが、それを乗り たしかにこれまでいくつかの欠 ▽第三週(二十七日から)=目標 の三千鞜にもっていき、炉内温度

り。しかし、JRR-2は、ほん

れてきたのは先刻ご承知のとお

とで二千點の二十~三十時間連続

会等でも論議さ

<u>اح</u>

一千鉛まで順調にすすめば、こることになりましょう」と述べて

, ウランとアルミの合金に不均質な

注目された。

る数々の経験

自信を裏づけ

た残り十九本は熱的に二千點程度

検討した結果、不良の三本を除い 部分があったためだが、原研側で

まで使えるだろうという答が出

というのが、原研側の考え方だっ 品を取りかえさせたほうが得策ー 道に関連して国

た、これらの報

ともあった。ま

とうに「不能炉」だったのか。

のJRR12』を報告しよう。 など必要なデータをとる短時間運

次出力上昇試験を終わる。 連続運転にはいる。これで、 一手窓で二十時間から三十時間の 三千KWに 第

分の自信

▽第四週 (十二月四日から) =第 一週のデータとにらみあわせて、



植松氏 (霊皇) かえる 年の成果たずさえ

だが、帰国後留学生活について

ルミ合金中のウランの量が少なく 濃縮のほうをつかえばウラン・ア

なるから加工がたやすく、また五

ランケット協定のため九○%遵縮

まってくる。

題以外に対労働組合の課題も

関係や警備の体制など、 2だけでなく、電気・水など

九〇%濃縮ウランによる

所員の労働条件など、困難な

うな燃料における国際間の原

か問 定 た は

原子力工学の研究を続けるそう 今後ふたたび京都大学にもどり

研究成果として四部作の研究報 同氏は渡米中マサチューセッツ もとで、特に燃料サイクルの問 工科大学の原子力工学科に籍を 次のように語った。

神の様となっ

なほの流行で参属い

についた大阪商船 "あるぜんち 月渡米した京都大学の植松邦彦 回留学生として、一九五八年一 日本原子力平和利用基金の第一 えて、さる十一月四日夜横浜港

の一部も近くAECリポー

して出版される。なお同氏は、

はなく、研究生活とともに有効 研究できた。また個人的生活に 偏見もなく、自由にのびのびと ついても特に不便を感じること 人の比率が多いが、別に人種的 「MITは目本人も含めて外国

研二号炉=CP で極言されたこ のエサとされ 数年、完成が遅 ムからかっこう ど口やかまし ない……など、 れた、出力が出 -5型) は過去 JRR=2 (原 いジャーナリズ 「不能炉」とま

るものなど燃料要素五本を新品と 九本のうち、被覆に多少キズのあ ▽第一週(十三日から)=燃料十 入れかえたので、まず臨界実験か

館でひらかれた原研の第三回研究 は「スケジュールでは四週間とな 十二月はじめには三千點で運転す一揖があることを発見した。原因は 成果講演会の席上で「十一月末か おり、神原豊三炉管理部長は、さ っているが、三週間で終えること になるかもしれません」と語って たとえば、同部関係者のひとり

な自信をもっているようだ。 究炉管理部は今回のテストに大き の四%程度まで下げて燃料要素の 測されている)の測定などがおこ ら約二ヵ月がかりで完全なオージ ホールをしたなどの理由から研 重水中のトリチウム(気体の

▽第二週(二十日から)=前週中

最大熱出力の三分の一近くを目ざ 出力上昇とにらみ合わせて整備 JRR-2の炉室いっぱいに取 術的検討および数々の経験だった 臨界後ここ一年あまりの蒼実な技 おそらく試作自動車の場合でも、 **車が試作されて「ハイ、このとお**

第一次出力上昇武験の経験があ そのさいに重水流量を最大値 積と、綿密な性能テストがくり返 ふれることとしよう。 い。ここでは、燃料の問題に少し を精製するほど簡単にはいかな 問題となり、その燃料はガソリン えされたに相違ない。それに比べ て原子炉は、ケタ違いに安全性が

▽燃料問題について

としては三本)にアルミ被覆の破 こなったが、温水の流動試験をし 次燃料としては米M&C社に三十 たところ五枚の燃料板(燃料要素 枚束ねて一本になっている。第一 で被覆して板状とし、これを十七 ルミニウムの合金をアルミニウム 十二本について立ち会い検査をお 二本が完成した。JRR-2のメ 本が発注され三十五年三月に二十 JRRー2の燃料は、 -カーである米AMF社はこの

合っていないとの見解をとり、十 り、十月一日臨界実験に成功した。 八月に十九本の燃料要素をひきと 一方AMF社はこの燃料が仕様に コールダホールの第一号炉で行

本で、五本はキャンセルとなった

おり、納期の来年三月六日以

人手できるのではないか

と関門

係者はみている。

来年

月

か

ら本格運転

間に性能試験をおこなって不良部 を二月まで延ばしてもらい、その 除く他の試験は一點程度の出力で 炉の性能試験のうち、しゃへいを 分は一點以上で用いてはならない など八月末までに通算出力三十七 千鞜の連続運転、武料の照射試験 出力上昇武験にはいり、同月二十 届いた。あとの八本分は、検査に不 足となり、製品としては三本にし 年三月末に完成して東海研究所に 本のうち十九本を引き取つたので 合格のものが出たため燃料板が不 残りは十一本。このうち三末は今 万智時を記録するに至っている。 一日に目標の千緒に到達して以後 こうして三干六年三月、第一次 さて、M&C社に発注した三十

はすでに出版されており、最後 でに原研が入手できたのは二十五 かならなかった。結局、十月末ま はあったが、M&C社はこの種の 第二次燃料に九〇%濃縮ウランの ラミがあるここうだった。が、そ ランを使わざるを得なかった当時 緩和されるととになり、原研では れがことしの五月になって、大幅 の日米燃料協定にもいくぶんのウ 方がつよい。これは二〇%濃縮ウ 在の技術ではやむをえないとの見 月までの炉特性試験の結果による 燃料をつかおうというハラを決め に燃料借入のワクやその手続きが 二〇%遐縮ウランを使うかぎり現 た。というのは、臨界後ことし たいへん分留まりの思い結果で

本挿入すれば一万器運転ができ と、二〇%遊縮の燃料でも二十四 ることがわかったのだが、九〇% | 歩潜実に炉のもつ能力を引き出し | 泉通しは明るい。あとは、一歩一 いる。しかし、これにはJR 験的共同利用となっており、 とみられる。スケジュールに 均二千點、週五十~七十時間2 の結果にもよるが、いまのよ レーターは四交替制が考えら と来年一月から本格運転とし 二千點で運転することになる 燃料の問題はいちばんの頭痛 第二次出力上昇試験後は、 か的工Rれオのでよるこ試



ルの燃料を四年間入れたままに なわれた実験では、三チャンネ

五六年以来で破損をおこした燃

上を達成している。

WWR-C型

料体の数はわずかに六本、

少々

は七月二十七日に臨界に達し

の漏洩は二百本となっている。

STULICH研究炉(西ドイ

ツ、ユーリヒ、メルリン型、

しておき、最大の燃焼率で三千

平均で二字九百1

日に、エリザベス女王の手で送 来すでに五年を経過したが、チ 電線にスイッチを入れられて以 イギリスのコールダホール原子

> 上、一千本近くが二千MVD以 二百本の燃料体が三千MWD以 WD空達成しており、そのほか

☆研究炉(アラブ連合、

カイロ

K(*) は九月二十八日、

完成

YUCNC (アメリカ、スター

でには、何年かにわたる技術の蓄

設計値どおりの最高速度を出すま

六〇年では八三・二%、六〇年 五九年~常に良好で 稼動率も非



ドラゴン計画にもとづき英ウインフリスに建 設中の高温ガス冷却炉(熱出力2万KW)

十KV)は十月初め臨界に達 IRT-C炉(ソ連、 ア、プール型研究炉、熱出力 発熱出力(「平KW)は十月 ノサラスピルサ、タンク型研 千KW) は最近連転を開始 | 000 (プルガリ 、ラトビ

めるまでには、いままで述べ

JRR-2が完全な稼動を

ステンレスの双付けに初めて成功した新 製品です。刃先がつわにシャープで、切 れ味の寿命がおどろく程長くなりました





米国インベリアル社と技術提携 資生堂ポアン剃刄

☆モンクロア炉(スペイン、ア

日初め臨界に達した。 究炉、熱出力五千KV)は十 カーバイド社炉、プール型研 リングフォリスト、ユニオン

Elsevier's Dictionary of the Gas Industry. 1961 (Elsevier) \quad \text{7,200} Handbuch der Regelungstechnik. Hrsg. G. Bleisteiner W. v. Mangoldt. 1961 (Springer) Plastics in Nuclear Engineering. By J. O. Turner 1961 (Reinhold) Principles of Cyclic Particle Accelerators. By J. J. Livingood. 1961 (Van Nost.) Proceedings of the National Symposium on Machine Translation. 3,180 Ed. by H. P. Edmundson. 1961 (Prentice-Hall) Response of Metals to High Velocity Deformation Vol. 9 Ed. by P. G. Shewmon. 1961 (Interscience) ...

盬 紀伊国屋書店

振替東京 125575 電話 501 代表0131

神戸市で開かれた「生活を豊かにする原子力展」の会場風景 11月7日から、兵庫県、神戸市その他の共催で大丸デパートに開

報告書を提出した。同時門部会は

同専門部会は近く解散

有望なものについては、国の助成

◇…島津製作所で酸化ウラン焼結

の一部を改良した、きわめて安全

◆…日経、

読売の六日夕刊その他

体の自動記録式選別装置を九日完

めて十一月八日の原子力委員会に

これでその使命をおわったので近

の製造、加工、分析法、試験法、

ならない。

これらの研究開発を進めるにあた

へ、第二章と第三章で諮問事項の

の確立、あるいは新材料の開発に

は、さらに多くの努力を払わねば

めての原子炉に十一日原子の火が

さを自動的に四種類の良品、不良

品に選別し、その測定値を電子管

◇…小型ではあるが、関西ではじ

報告書は第一章で原子炉用金属材

には、なお多くの研究を実施する が、材料の国産化や促進するため

必要がある。一方新しい加工技術

することが必要と認められる。 金等を交付してこれを強力に助成

村について用途別にその概要を述

・万八千名の参観者があり、12日閉会した

・原子力委員会の金属材料専門

民間研究機関では原子炉用金属材

ように述べている。

料の研究や改良が行なわれてきた

あるいは新規な消想でその成果が て開発することが適当であるもの 進する施策についての要望をとり

第四章で重要研究の開発を促

まとめている。このうち民間研究 機関に対する助成については次の

を効果的に促進し、技術水準を向

上せしめるためには、民間におい

午後四時二十分最初の燃料を装入

いたが、このほど完成、

さる九日

し、十一日午後八時五十三分つい

に臨界に達したのである。これは

その他を流用して、

を支出する決定をする。

一昨年米原子力委員会が東京見本

したがって国が重要と認める研究 って推進することが重要である。 っては、民間企業が持つ技術によ

> ド社から濃縮ウラン・軽水減速・ て米国のアメリカン・スタンダー

不均質型原子炉(UTR型、熱出

和三十三年五月から審議を継続し 部会(部会長三島徳七氏)は、

きたが、このほど諮問事項に対

計画によると、なんらかの支障が一クス(影中性子味)の頂定に重き

告書をまとめた。このうち三部にすごすことができた」

参一ウィルコックス社ですすめられて
│ければならないわけだ。(Y)

新しく掲載を希望の向きも十一月末日までに

百三十三平方は、建家面積延べ四 設したもの。敷地面和三万九千四一

一年気製品の実物、模型などを陳

して、その原理を平易に解説す

一方、史料的製品や新製品など

協力をお願いいたします。

夏任者十氏から詳細発表

場を付設して、JRR―1からJRR―3までの関係写真、 会、学会誌などを利用しているが、この講演会は研究の責任 た。研究の公開をたてまえとしている原研では、なるべく早 頤の東京文化会館小ホールで 第三回研究 成果講演 会を 聞い 日本原子力研究所では十一月九日午前十時から、東京上野公 くなるべく広い範囲に研究成果を発表するため、つねに学 つで午後五時過ぎ閉会した。聴衆約二百名。なお別室に展示 **藤濱会は西堀理事の開会の辞で始まり、菊池理事長のあいさ** できるだけで、従来の研究はこれによったものばかりであっ 者が責任をもって公表するた め毎年開 催して いる ものであ に傾向があったが、今回は工学部門に多くの時間がさかれて にが、今回は**J**RRー2関係のものも現われてきている。 、た。 原研の原子炉はまだわずかにJRR—1の全力運転が

第一次出力上昇試験としてさる三 月行なった一千KW出力上昇試験 転したが、よい結果を得たうえに 模様、その後の運転状況を報告し について、そのいきさつ、試験の は目標の一千KVで長時間連続連 熱的等価試験もした。五月一応試 JRR-2の第一次出力上昇試験 ①JRR―2の出力上昇試験= 練など管理体制の整備に意を用い であり、このため要員の確保と訓 JRR-2は今後出力をあげる場 十七万以い時である。 連続試験運転と並行し、共同利用 た。また七月と八月には一千KW 食試験装置などの実験設備を設け Wを目標とする第二次出力上昇試 合は長時間連続運転を行なうべき 八月末現在での全運転出力は約三 の準備のために所内で試用した。 ている。なお年末までには三千K

力

産

新

研究炉管理部長神原豊三氏

パネル、模型などを陳列した。

回折装置、低温照射実験装置、腐一年度初めから開始の予定である。 験をするが、所外の共同利用は来 ていると述べた。 上昇を控えいろいろの希望をもっ たるものだが、JRRー2の出力 日が浅いので得られた成果は微々 ③核燃料の分析=分析化学研究 室長本島健次氏

などについて報告したもの。 ▽燃料・金属材料の研究=金属研

【写真は講演中の神原部長】

まだ | ▽概説 = 原子力工学部長中尾常世 その成果を次の担当で発表した。 研究室の主要研究テーマについて 金属、機械装置、計測、化学工学各

中性子回折現象の特徴を生かし、 固体物理的解明の強力な武器とし やJRR―2利用による実験計画 、開発された実験装置の多目的性 ②中性子回折装置とその成果= 固体物理研究室国富信彦氏 とであると述べた。 ればならぬのはいうまでもないと で、さらに強力に研究を進めなけ つれて新しい核燃料や炉材料物質 確立することができ、少なくとも の間にいくつかの新しい分析法を も取り上げられることになるの ことを喜んでいる。しかしまだ解 金属ウランの分析では一応諸外国 に比べて劣らない能力を歪い得た

問題点とその研究= 延築課磺康彦氏 建設課長大村道夫氏

建築部の研究成果を報 強度に関してなされた 事故対策、耐震、構造 として遮蔽、汚染対策、 を建築するうえ

に問題 Uなってきた安全対策

⑤原子力工学部門の

原子力工学部の現状と 将来への抱負について

年四月満工、約五十五億円を費し たばかりでなく、原子力関係など を分割することがむずかしくなっ 所で担当していたが、最近これら 研究所で、軽電関係をマツダ研究 これまで東芝では重電関係を観見 て、地下一階、地上四階(一部五

酸化ウランなどの分析に関し

④原子力施設運築の ▽原子炉の動特性の解析=計測制

のほどマツダ、鶴見面研究所の移 転もほぼ完了したので十一月十五 した東芝電気中央研究所では、と

の東芝科学館を初公開した。 を招待して披露すると共に、併設 産業界その他の関係者約千三百名 日本原子力産業会議ではただい 『年鑑』の資料でお願

昭和三十六年十一月

りでアンケート調査をしており 鑑」の編集資料として、全国の ますから、会員各位の特別な御 備等につき、十一月末日締め切 開発体制とその内容、業績、設 大学、国公立試験研究機関、団 体、会社などに、原子力の研究 **岡宇あて御連絡下さるようお願** どを年鑑に掲載御希望の向き 原子力関係の研究開発、業績な ましたが、そのほかにも新しく の調査実績にもとづいて発送し なお調査返は、とりあえず従来 は、日本原子力産業会議調査企 いいたします。

日本原子力産業会議

▽原子炉の伝熱と構造強度=機械| ▽燃料再処理について=化学工学 御研究室三井田純一氏

研究室長山本寛氏

本館に移し、近く落成する川崎市

部を昨年完成した燃料関係と共に 三十二年六月完成したが、その一

原子炉を中心として研究するのに

燃料に関

大師河原の日本原子力の研究所が

原子力関係の研究設備はさる昭和

示装置が設けられてある。 監視できるように、廊下に遠隔表 れのバルブの開閉状態が室外から 素、窒素ガスが配管され、それぞ

文部両省、原研、原燃、放医研、

技術庁の振興、計画両局、通産、

果芝中研完成 係者に対 披・ 露関

川崎市小向東芝町にさる七月開設 東芝科学館は同館の一、二、三階 する研究を推進する。

階)の鉄骨コンクリート造りで建一の一部三千百六十平方路に、

新実施規則を無料で配布

日本原子力産業会議ではさる九月 原産が原子炉規制法関係の総理府令や告示などを

の使用に関する規則▼原子炉等 運転等に関する規則の一部を改 を改正する命令▼原子炉の設置 製錬の事業に関する規則の一部 ▼核原料物質又は核燃料物質の 正する総理府令▼国際規制物資

一配布する。これは原子炉等規制法 望申し込みは原産原子動力課で受一 のプリントを希望会員会社に無料 官報に掲載されたものである。希 と同法施行令の一部改正にともな 制定が行なわれ、九月二十九日の い、以上の関係規則の一部改正や 規制法第二条九項の規定に基づ き国際規制物資を定める告示

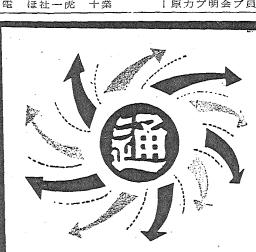
◇…放射性降下物の測定、分析機 ず、高さ同〇・〇一ず。(この項 マイナス各五学、原径同〇・一一 るもの。測定範囲は重量プラス、

告知报

の各紙が、三菱原子力と米国ウエ た。この協定はウ社が三菱原子力 定が成立したと発表したむね、U ナル社が五日、原子炉に関する協 SISのニューヨーク電で掲載し スチングハウス・インターナショ 一月十三日次に移転した株式会社(社長神戸捨一 ◇本社移転 原産会員沖 、社長竹村吉右衛門氏)はこ 世区芝琴平町一〇、港区芝琴平町一〇、 電は社一虎・十葉

業経

の閣議で昭和三十六年度の予備費 能を強化するため、政府は十七日 六千五百万円 プ研究会安全対策サブグル



機械化 合理化 近代化

迅速、確実な輸送!

更重本自



時三十分散会した。

原研に安全衛生課

配合肥料 カーバイド 酸 ビニール メラミン セメント 其他化学製品

十四日工業クラブで

回の割で交換される。十研究部の

ス、圧さく空気、真空、水素、酸

するため、原子力局を中心に科学原子力平和利用のPRを協力推進

の温度と五五%の湿度を保つよう

しの研究所本館はつねに二十五度

展示して公開する。参観自由。

電気化学工業株式会社

本 社 東京日比谷三信ビル TEL (591) 6451 (代) 営業所・大阪・福岡・名古屋・新潟 出張所 富山・長野 工 揭 胄 海 • 大牟田 • 本 所 • 渋 川 • 秋 田

市場が果たす役割の規模、程度な

米国における原子動力の計装は、一もこの数字は、発電に限定してい D TESTE III

装費の割合は、研究炉と動力炉で一 るところも多いが、前回で述べた 炉メーカーがみずから行なってい くない。発電プラントにおける計 そこで今後の研究炉、動力炉の開 オートメーション機器専門メーカ ら四%前後であろうとみられる。 も異なるが、だいたい三・五%か は異なり、また炉の型式によって によって行なわれる場合も少な

四億七百四十万ががあてられてい「の機器によるインスツルメンテー」 が

軍事利用に、

原子炉

開発には び炉材の開発に、四億九千五百万一 五億六千八百万がは原子燃料およ

発におけるオートメーション機器 | のになることはたしかである。 算では、総額約二十五億どのうち 炉や大型動力炉および燃料関係の るので、実際には他の目的の原子 ら、この数字よりさらに大きいも 一九六〇年における米国原子力予 プラントの計装も算入されるか

調節計などの生産、販売とこれら ラントの各パートにおける計器、 機器メーカーによる事業活動はプ 介しておこう。

装小 型 一炉の 多 い計

②同じくフォックスボロー社に

測制御におけるオートメーション の勢いとみられる。かんたんに計一

機器メーカーの去就についてふれ

ものも増えているようである。

現在、米国の計算機メーカーは、

IBM、RRなどを含めて十六~

一方、事務用計算機メーカーの中

でも、工業用計算機に関心を示す

ご原産

最新の設備

[12]

中心に、最近における機器メーカ うち、特に原子力産業分野に熱意 ーの二社となられる。この二社を ハネウエル社とフォックス。ボロ を有しているのは、ミネアポリス・ オートメーション機器メーカーの ーの原子力分野における動向を紹

び現在実施中のものについて、 母近計装が実施されたもの、

の分野におけるオートメーション ところあまり多くない。今後大型 カーによって行なわれる場合が少 も向上してくるものとみられる。 発電炉の建設が進むにつれて、こ 計装に当たっている例は、現在の なくなく、機器メーカーみずから 機器の専業メーカーとしての寄与 原子炉の計装は、 いわゆる炉メー

グパネル、スタンドバイジェネ (マニュアル) スターティン よってPM-1型移動用動力炉 (電気出力一千KW)の計装が

RRなどによ

記オートメーション機器メーカー 十七社といわれるが、そのうち前

一なられる。

最上のお料理

来月五日学士会館 で理研学術講演会

タロガーや、計算機が導入されるン機器業界の区分も、制御にデー 子力産業におけるオートメー の技術を有するだけに、今後の

のおもな例をあげると次のとおり 大学研究炉としては最も強力な 原子炉は、出力一MVであるが ル型炉の計装を行なった。この ージニア大学のスイミングプー ③マックスウェル社は、最近バ 素は、ウランとアルミの合金か ものの一つである。炉心は二十 ては安全性に特に意をもちいた らなる十二枚の燃料板からなっ

七万五千KWの原子力発電プラ ラスカ州のグレイトリンカン地 初のナトリウム冷却炉で、ネプ る。この動力炉は、アメリカ最 ントの計装が最近行なわれてい ①フォックスポロー社によって 一そのための機器としてデータロガ さらに計算制御方式が開発され、 御にはじまって最近では中央集中 工業用オートメーションは各点制 管理が一般的になってきている。 管理、グラフィックパネルによる

ナログまたはディジタル計算機が 原子炉の制御、とくに原子力発電 所の制御は、最も精密、高度な自 るから、将来はデータロガーやア 動制御装置を必要とするものであ 制御に用いられつつある。

力

計画の期間は八年だから、年間約

して五千四百億円となっている。

これは昨年度における政府投資に がつくり出されることになる。 子力予算で七十二億円の機器市場 がって実際には、二十五億がの原

販売に力を入れている機種は次の れているが、なかでも各社が生産

サーモカプルウエルズ、ポテン ションメータ、マルティプルコ

> と原子炉制御装置について行な 同社による計装は、熱交換装置

われたもので、同社の発表によ

スターティング、オートマチッ ンスファスイッチ、マニュアル ンダクタ、オートマチックトラ

意したもの。となっている。

性確保と正確な作動とに特に留

ると "改良型制御装置で、安全

和三十三年から現在まで、数多

を発表し、原子力船開発につい

きまったものの、なかなかそれ

ところが、その後、方針がこう

以上には具体化しない。現在

日本原子力船研究協会は、

昭

原子力委員会も三十六年二月、

し、この中で原子力船開発計画 業開発に関する長期計画を樹立

る。われわれとしては、この方

②開発機構は、

国または、

こ

なくては、なにも具体的になら

れに準ずる機関を中心とし、

ないわけである。

を大きくとりあげるとともに、

力するつもりでいる。 針にそって、その技術開発に努

ということができよう。実際に

ても、周知のように、前期十年(まで、ほぼ固まったことといえ

~~~~~~一日も早い建造が必要 ∞

なかなか決らぬ第一船。

やりたいテーマがあっても金が

ない。肝心の国家の方針がはっ

きしていないなどが、その主な

きめた。

計、建造、運航を行なうことを において、原子力第一船の設

専門部会によって、次の構想が

ば、今春再組織された原子力船

まとめられている程度である。

①第一船は、排水量一万か以

原子力委員会の計画がでて、を一隻つくってみることであ

はこれを名誉的発明としており、 判問題に発展している。フランス

きに政府の原子力品温光に対す.

ここに、われわれが希求して

画性のない、いわば手あたり次 ーマは、どちらかというと、計 しながら、その研究内容― くの研究を行なってきた。しか

第、アトランダムにやってきた

がってオートメーション機器の市

七百億円ということになる。した

間では約二十億円になる。もっと

一になろう。

めば、さらに市場が拡大すること

会社による大型発電所の建設が進 よる分だけであるから、民間電力

場は、年間約二億五千万円、八年

産

なったものであるが、発電コスト

の設計、建設費、経費の算定を行

使われた額は、約二千万、火約七十

一億五千万円)といわれる。(IS

温度制御においては熱電体、水ま このうち、機器生産の分野では、

トン、圧力制御においては圧力計 たはガス入りバルブ、毛管型ブル

ダイヤフラム、流量制御において

回転計などが売ら

域の電力に当てられるものであ

ーやディジタル計算機がプロセス

る。このうち計測器や制御機器に

ーション(計装)とにわけられる。

である。

Aジャーナルの推定による)した

をKWH当たり六~七ミル程度に

度の大型のもの十型式についてそ

ゆるピットマン報告は、発電所の

九六〇年二月に発表されたいわ

候器市場 一千万元の

で後は大型炉の分野へ

专

館気出力はおおむね三十万KW程

下げるために必要とされる研究開

発費はプロトタイプの実験炉の建

行なわれている。この原子炉は われ、同社は計装とともに放射 の特徴は、軽量小型にあるとい 暖房も行なうことができる。炉 移動可能なもので、発電ととも マーチン社製造による空軍用、 時間当たり七百万BTUの 各燃料要 ビジネスマシンとしての計算機は 前記オートメーション機器パーカ ておとう。

## 今後の展望

すめているが、現在までに二十回 るだけに、高裁でも慎重審理をす ティ支払義務を生じる可能性があ におよぶ準備手続をおわり公判が

って開発されてきているが、プロ ぞれ精力的に開発に乗り出してき 国でもようやく開発に着手された 発は困難とみられる。 で優れたもの以外工業用計算の開 であるだけに、既成の機器メーカ 膨大な研究投資を必要とするもの ている。しかし、計算機の開発は 分野であり、機器メーカーもそれ ーの中でも特に技術、資本力の点 セス制御用の計算機器は、最近米 東京高裁 公判近づく | る。 したがって将来、 計算機メー 社。だけである。同社は、データ は、ミネアポリス・ハネウェル してくることも予測され、また既 豊富な機器市場を目当てに乗り出 算機を販売しており、現在までに マテック一〇〇〇 といわれる計 の中から、これに加わっているの 成の原子炉メーカーもそれぞれ相 カーが工業用計算機を手始めに、 七~十合を出しているとみられ

仏CEA提訴の特許裁判

月、日本の特許庁 スCEAから東京 昭和三十二年十|雄氏の鑑定書をおもな論拠にして 原子エネルギー

明)の特許拒絶をめぐる裁判問題 願、ジョリオ・キューリーほか発 び「同安定装置」(昭和十五年出 わが国原子力産業にロイヤル の発生装置」およ 原子炉の工業化が可能であったと がなされ、これによってはじめて 示された重水所要量が過少である ウランは非均質型以外に使用でき 熱や放射能の材料に及ぼす影響、 九四三年までには、スマイス報告 初の原子炉CP-1が完成した一 発明の時期一九三九年から史上最 ない事実などの記載がないほか、 トリウムが燃料として使えず天然 願明細書には遅発中性子の問題、 いるが、同鑑定書によるとのこの いう歴史的事情、および②この出 に示されたおびただしい開発努力

採用されるようになるのは、当然・特許庁側の主張は科研主任杉本朝一の技術内容の不備により、この のか、その資金のメドがきまら こと(臨界の不明りょうさ)など

で、原子力委員会の正式決定で られたわけでもないようだ。 って、いくら金を出そうときめ いるわけではない。また、もち ための細目は、なにもきまって ろん、これは専門部会のこと 以上のように、まだ具体化の 国家資金を根幹とした資金に にこれに協力する。 よって行ない、民間が積極的 技術開発にとって、手っとり早 うとしている。 けである――すでに一年になう ら――その前に、さんざんこの いか。百の実験より、原子力船 計、建造にのり出すべきではな した具体策をまとめ、実際の設 いのは、一日も早く、原子力船 ための議論は行なわれてきたわ 基本的な方針が定められてか もうここいらで、はっきりと

したわけである。 庁はこれでは安全な実施がで 明細書によっては工業的実施 いから、特許法第一条にいう「エ 可能であると結論している。 きな 特に不

別館

| 水準の低さによると、きびしい反 | 水準の低さによると、きびしい反 | できるもので、日本でのみ特許査 | 登録された有利な事情を背景に学がすでに世界の四十四カ国で特許がすでに世界の四十四カ国で特許 明の出願当時発明者たちが実施のこれに対しフランス側は、この発 出し、各国特許法の比較から明細習院大学豊崎文衛氏の鑑定書を提 書のある程度の不備は出願後補正 論を加えている。

歴ウランの製法に関する米国特許 年当時すでに存在した九七%高純 年当時すでに存在した九七%高純 受入のため実現できず、発明者ら でありに発明者とフランス政府が原 であり、発明者とフランス政府が原 であり、発明者とフランス政府が原 の並み並みならぬ力の入れ方を示 出願したが、米国と日本だけが裁フランスはこの発明を五十カ国に 参加した歴史的事情に関する資料は米国にわたってCP-1建設に に及び、この裁判に対するCEA 二七三五二一号や、ベリリウム

> ▼食堂 (定食料金) 客室(バス完備) 会議室(三百円~千六百円) 夕食 七百円より 三百円 (洋食) 朝食 三百円より 百五十円(和食) 各種会合に御利用できます 昼食 五百円より 二百円 (洋食) 一人 和室 四百五十円 一人洋和室 千八百円より 二千円より (別館) 一人 洋室 壬二百円より

七百円

### 



前核融合、午後放射線化学。
マ五日午前放射線物理。マ六日
子物理、放射線物理。マ六日
のうち原子力関係は次のとおり

▽早饒

九六一年度学術講演会を開く

ے °

二人で

二人ご

東京神田一つ橋の学士会館で

理化学研究所では十二月五日

から

家族的なサービス

落ちついた雰囲気

広大な庭園

お申し込み先】

東海原子力俱

・ 話(東海局)」でた・ 協会・ 高公 が城県那河郡東海村大字村松字荒谷 楽 部

コント

理由であった。

本原子力産菜会識が、原子力産 それが昭和三十五年九月、日

る方針が明確にされたわけであ

きた政府の原子力船開発に対す とこに、われわれが希求して

①第一船は、排水器一万メリ 下、主機出力二万馬力以下で

も、政府が面どうをみるといっ

いったいどのくらいでる

原子ナ委員会の計画かでて

を一隻いくってみることであ

る。(日本原子力船研究協会事

どこからもロイヤルティを

いないが、日本の場合はこど

昭和31年3月12日第三種郵便物認可

鱳 会 力産 原 本

東京都港区芝田村町1の1(東電旧館3階)

電話(591)6121~5

振替東京5895番

# 態勢さらに強化 **長期計画具現の促進**

この会議は日米両国の原子力産業 | て腹蔵なく討議し、両国の協力態 日米両原子力産業会議が合同事業として開催する「日米原 丸の内の東京商工会議所ビルで会期四日間の幕をあける。 子力産業合同原子動力会議」は、十二月五日午後二時東京

和利用の核心たる動力炉の開発に 関係者が一堂に集まり、原子力平 ともなう諸問題を中心テーマにし、ので八日終了する。 計画具体化を促進しようとするも 勢をさらに強化してわが国の長期

日米両原子力産業会議はさきに昭 力で開発を促進しようとしたもの ことを話し合い、 産業人の国際協 それぞれの立場で経験し考察した 力平和利用の各分野にわたって、 和三十二年、東京で第一回の合同 であった。しかしその後踏般の慣一建造した経験などを聞くことに重 日米両国の産業界が、ひろく原子 原子力産業会議を開いた。これは

転したりした経験や、原子力船を ため、実際に自分でやってみた人 究発表会に陥ることを極力避ける しかし会議が商業主義や単なる研 にちから、動力炉を建設したり運

年であり、米国では新たな開発政 用長期計画が改定実施された第一 テーマにする会談を聞くこととな めることになり、原子動力を中心 め両国の原子力産業界が十分に意 っそう必要になっていた。このた 策の具体化方向が明らかになる年 であることなどから、日米相互の 見を交換し、友好関係をさらに深 埋解と信頼を通じてする協力がい わが国では原子力開発利

勢がいちじるしく変化し、とくに

会が開かれる。

第一セッションとして開かれ、 開会式は定刻午後二時A会場で、

点をおくことになっている。これ 産業の現状に関する相互の理解を によって動力炉開発促進の貴重な 盤にしようとするものである。 資料を得るとともに日米両原子力 力方策を検討して、その実現の基 深め、さらに日米間の具体的な協

りかも午前十時から帝国ホテルで 日米原子動力会議の第一日五日は 午後二時本会談を開くが、これよ 一会場で討議 四日間のプログラム

商ビルで日米両主催者合同の午食 米側オリエンテーション、正午東

十セッションを

ア代表の見解が発表される。ほか、午食会では極東と東南

۲.

第二日は第二セッション一動力炉 する総合調質があって終了する。 きつづき日米三氏の将来計画に関 ①(午前九時A会場)第三セッシ ョン一同上②(午後二時三十分A 会場)第四セッション―原子力船 (午後二時三十分B会場)を開く 午食会では極東と東南アジ

第八セッションー政策問題(午後 ッション!資金問題(パネル=午 力炉③(午前九時A会揚)第六セ 核燃料(パネル=午後二時A会場) 前九時B会場)第七セッションー 第三日七日は第五セッションー動 一時B会場)が開かれ、午食会で

**最終百八日は第九セッションー協一プションがある。** から見解が発表される。

ののち午食会でヨーロッパ代表の ののち午食会でヨーロッパ代表の を揚で第十セッション閉会式を開 進の見通しについて討議し、日米 画原子力産業会議会長のあいさつ があり、全日程をおわる予定。 なお会議第二日の六日には午後一 時と五時十分から、東南ホールで には年前九時三十分から年後五時宗 は年前九時三十分から年後五時宗 で同ホールで「背少年の会」で、午 後二時から四時まで東商ビル二階 長、米大使、首相、 また毎夜午後六時三十分から 原子力委 会

と通産省など主催の夕食会、

つまり日米両国の原子力産業界はその市場を有してお ギー源の経済的で社会的な最善の利用を可能にする結 われわれが今度の合同会議で、この驚嘆すべきエネル われわれはこれら市場の要求に、適切に確実に 設計および運転における経験は電力コスト の低下をもたらした。今日、原子力はそ 要を満たすことができると考えられる。 くの国々の燃料の高価な地域での電力器 の経済的利点において、在来の燃料とと もに、米国および日本、あるいは他の多 元気のもと やっぱり…



た。したがってわ が蓄積されてき 多くの経験と知識

れわれがどれだけ

の実用化に関する

の間に原子力発電

第一回日米合同会議が開催されて今日までの四年ほど

法が討議される。両国代表の発表者が、

両国の政府お 有益で実際的

の、新たなエネルギーを必要としている。原子力発電

現在日本はその驚くべき経済成長を続けさせるため

よび産業界間の協力を強化するための、

将来の障壁解消

日米両国産業界の協力をいっそう緊密にするための方 今回の合同会議のいくつかのセッションにおいては、

てきた。【写真はウィーバー米フォーラム会長】

十一月十二百、

日米両原産の合同会議に関して大 わが国の原子力産業界に送っ

は疑いもないととである。

が両国の平和と貿易の結びつきの強化に寄与すること

間の諸関係および諸規則の問題も、お互いの協力によ

って解決できるものである。今度の会議が国際協力を

通じ、解決を求められている<br />
諸問題に対する方向を示

要次のメッセージを**、** 

米フォーラム会長チャールス・H・ウィーバー氏は

原子力産業合同会議が所期の はとりもなおさず前回の日米 催されることになった。とれ 成果をあげて、両国の原子力

いよこの会議の意義を深めるもの、あって、まことに喜ばしい。 ナカ委員会、AEC、関係産業界その他から官民多数が参加され、 もまた米国の上下両院合同原 にたえない。と同時に、今回 からも深い関心をもって多数この会議に参加されることは、 東南アジア諸国、ヨーロッパ各国などの関係機関

京で開かれる日米両原子力産業会議合同の原子動力会議につい て次の談話を発表した。【写真は菅原産会長】 日本原子力産業会議会長菅礼之助氏は十一月二十二日、近く東

日米両原子力産業会議の共同事業として計画された「日米原子力 産業合同原子助力会議」は、いよいよきたる十二月五日から四日 東京商工会議所ビルで開

のあらわれであって、御同慶 開発に多大の質献をしたこと

# 玉 原産会長菅礼之助氏談話発表

核心となる原子助力、とくに原子力発電と原子力船を中心テーマ た。今回は原子力平和利用のもう一つの分野であり、 び放射線の利用についての総合的研究発表と討論の機会をもっ し、米国や東南アジア諸国からも参加を得て、アイソトープおよ われわれはさる 十月京都で第 四回日本 アイソトープ 会議を開催 諸外国の協力に期待するところが多いと思われる。

出している。しかし原子力の開発は高度の研究と、多岐にわたる 長期計画の改定となり、新長期計画はすでに実施の第一歩を踏み や原子力産業界の努力はもちろん、米国はじめ海外先進国の協力 御承知のようにわが国の原子力開発は、前回の合同会議後、政府 もあって格段の進展を遂げた。その結果、 計画を円滑に推進するには、 今後なお幾多の面で、米国をはじめ 今春の原子力開発利用

できることは大きな喜びである。またこのような協調 る経験を交換し、将来の緊密な協力関係について討議

第三者補償、敷地と安全性の問題、諸基準、政府と民

もいっそうの協力で解消できることは明らかである。 いてはお互いの協力が肝要であり、将来週遇する障壁 は両国の利益を増すものである。原子力平和利用にお

論が得られるよう心から望む。

米国の原子力産業界があなた方と一緒に動力炉に関す

の原子力産業会議が共催でふたたび合同会議を開くと

基礎はすでにできあがっているといえよう。 とのこと

最近の数年間に日米両国間の交流がかなり盛んに行な

ウィーバー米会長がメッセージ

私たちはお互いによく知り合い、協力のための

Ŋ

たえる用意をしなければならないと考える。

Uは適切なことであると思う。

を期待できるかを 進歩し、将来に何

知るために、両国

し合い、

九五七年五月に開催した第一回の日米原子力産業合同会議が、そ として、日米間の合同会議を開催することになったのである。 針を聞く一方、わが国の長期計画実施上に当面する諸問題を提起 に対し、今回は動力炉の開発と見通しについて米国側の経験と方 れぞれの立場で原子力平和利用に関して経験し考察したことを話 によって原子動力の開発を推進しようとするものである。 し、この話し合いによって相互の理解と信頼を深め、国際的協力 産業人の国際協力で原子力の開発を促進しようとしたの

相互の理解と信頼を深めるための努力をしなければならないと考 らうと共に、われわれもまた米国その他の海外事情をよく知り、 しかしこの会議を十分に効果あらしめるためには、米国をはじめ とする各国からの参加者諸氏に、わが国の現状をよく認識しても

に運営されるととを切写する。 ラムが作成されたことは喜びにたえない。 委員諸氏の熱心な御尽力によって、十分成果の期待できるプログ さいわい米国原子力産業会議の顧問グループとわが国の会議運営 と御支援によって、との会議をよりいっそう意義あらしめるよう

か合せ四日

(日本鋼管)

原子力産業構造専門視察団

## シスラー氏来日

二十四日朝四時羽田

同伴で羽田滑来日した。 現に米国原子力平和利用基 米フォーラムの初代会長で ロイト・エジソン社長ウォ 事長として活躍している。 一十四日早朝四時二十分、 L・シスラー氏は、 夫一 | デ金あり

## 原産だより

午後一時三十分(電力経済) 一分、試験検査サブグループ イグループ十二月 一日午後 第十八回常任理事会 四日 原子動力研究会 プグループ一日の一日午後一時三 打华

> 錠剤·内服液。 ●肝臓強化と全身解毒の保健薬 グロンサンは肝臓などの臓器をはじめ、 血液の中でも活ばつに働き、毒素や疲労物 質、アルコール毒などの有害物を、キレイ にのぞきます。その上、肝臓の強化、ビタ ミンの活性化、ホルモン調整など、独特の

働きが証明されています。このようにグロ ンサンは「全身解毒」の本体であり、健康 の基礎をつくる"元気のもと"です。

(大型錠) 背い箱入り…… 15錠・ 50錠・150錠 (普通錠) 緑の箱入り…… 30錠・100錠・300錠 (内服液) …………… 1本・5本入・30本入 ご家庭の常備薬に大型錠・普通錠を







長が放射線利用専門視察団として

たのは、昨年夏早川原産事務局次 原子力産業会議の間で話題に上っ

一の中心的な位置にある原子力発電

じて原子力産業界には、長期計画

計画と合同会議とを、もっと具体

という要旨のものであった。

的に結びつけたいという考えが頭

<sub>1</sub> わっていたが、これらの検討を通

合同会議開催までの経過

助力炉建設に関するできるだけ 明確な見通しを得る必要がある

わが国ではこと一、二年の間に

渡米し、七月十一日ロビンス米フ

について、米国側からはコンサル

開発の蓄積に基づいた論文が期待

ついても同様に豊富な経験と研究

されている。これら運転中の原子

館経済顧問のほかにメーカー側か 議のために出席する訪日米国大使

らも有力なメンバーが参加する。

からは原子力発電会社が第一号炉

際して遭遇した諸問題が、日本側

ヤンキーやその他のPWR型炉に

ーから七名のメンバーがパネルに 関代表のほかに、電力会社、メーカ

行なわれている。

故などについての客観的な評価も

側からは、開発銀行などの金融機

ータと並んで制御棒駆動装置の事

ドレスデンについては、詳細なデ

で経済的な原子力発電を達成する 景と、その後の技術的な進展の中 向と目標を述べることになってい

体の製造など広範な問題を扱かっ

本会議で行なわれるパネル・セッ

資金セッション

ションのうちの一つで、きわめて

み、炉物理、冶金、熱伝導、燃料

いわゆるピットマン報告の背

て興味ある。

開発計画についてその基本的な方 ピットマン氏がアメリカの動力炉

タント会社であるエバスコ・サー

レスデン、ヤンキーについてそれ

さらに運転中の原子力発電所に関

が発表されるので両者間の協力、

画の初期に当たって原子力発電の

とのセッションは、とくに長期計

調整などについても学ぶところが

さらにこのセッションでは、建設

長期のメーカーズ・クレジットや

に関係する重要な諸問題をあつか

ョンと同様、日本の長期計画実施

料セッションもまた、資金セッシ

同じくパネル形式で行なわれる燃

核燃料セッション

体的な取り決めや約束は直接とこ

から生まれないとしても、日本に

期待される。

るための重要な布石となるものと

炉については、すべて発電所所有

者側と炉メーカーの双方から見解

でれ発表される。

の内容をさぐってみた。

セッション

すでに四年にわたって運転を行な

ってきたシッピングボート原子力

WINS THE

· 韓間 生物

折衝が行なわれていたのである。 原子力産業会議の間で相当慎重な

されたので、今度の合同会議をそ

あった。しかし日本側としては一 の適当な時期にしたいというので

に当っており、計画を推進する見

いことが、当事者たちに強く認識

後の動きに影響される点の相当多 計画のうち、世界原子力情勢の今 をもたげていた。すなわち新長期

との時期は米フォーラム年次大会

が違っていた。米国側の考えでは

はいった。

は、まず開催の時期について意見

もあるし、一九六一年よりも以降

否と会議の性格をめぐり、日米両

であるから、一年四カ月になる。

あたかもそのとろ、

R、SCR、HTGCRなどの開 中の動力炉として、OMR、

ながら米国側の発表がその中心と なるが、しかしその中にあって日 動力炉セッションは、当然のこと 発途上にある炉型式について具体 本独自の研究開発として、原研の

G C

セッショ

ことになっている。

きた技術や、あるいはヘリウムガー題点の指摘が行なわれる。 確保などの分野で最近開発されて 原子力船の炉心取換えの研究、 御棒駆動装置の簡略化、安全性の 験が発表される。ここでは、これら 全般的な開発計画とこれまでの経 原子力船に関しては、米国側から 制

**上の現状などについて発表される** とともに、原子力船災害補偿の問 に出席した日米両国の代表から問 の山県会長から報告が行なわれる および研究情況については原船協 なものであろう。日本の開発計画 タは、これから原子力船の本格的 **開発に乗り出す日本としては貴重** 

ら、本年六月に公布された原子力 らはフォーラムの補償問題委員長 損害賠償法を中心とする法体系の

ける状況の説明と並んで、 であるシュルツ氏から、

である日米産業間の協力増進に対 回の会議の基本的なテーマの一つ 討論が行なわれるが、ことから今 の問題や資金調達の国際的側面な パネルセッションでは、国内金融 ところが大きいものと思われる。 達の問題点と、アメリカ側の政策 する建設的な第一歩が踏み出され バーから提出され、それに基づく どに関する基調報告がパネルメン おける原子力発電に対する資金調 しこのセッションのテーマは、核燃 ぼられよう。とくに米国からの燃 料の需給、価格などに関する米国 カナメとなることなどに関連して が、日本における長期計画実施の 料の性能と長期にわたる供給保証 の持つ国際的影響の問題などにし 技術との微妙な関連、およびそれ 点を中心として、主として政策と 燃料の輸送および再処理といった の政策、燃料政策と技術とが原子 とのセッションに向けられている 力の経済性に与える影響、使用済

り決めと同等にすること、また長 の中には、海外に対する燃料供給 ら米AECに提出されており、 そ 中心として、米国の燃料政策に対 し積極的な修正の提案が産業界か また、最近米国原子力産業会議を

ス冷却炉の船用炉としての可能性 される高度の安全性、災害補償に 表される。このためにとくに必要 からむ問題点などを中心として発

およびスエージング法など新規加

一法の開発を含めた核燃料成型加

められている軽水炉の理論的研究

半均質炉計画、民間で意欲的に進

期にわたる供給の保証を行ない発しが会議を通じてつちかわれること するどく日本の法体制に対する疑 の点について両国間に十分な理解 に対して、場合によっては政府を 能ではないか、というアメリカの 通じて供給者に求償することが可 る。とくに日本の法律では、 問が投げかけられるものと思われ 力事業者が五十億円をこえる損害

題点が含まれていることなどを考 にならないよう考慮すべきである る運要な発言が参加する米AEC らは、予想外に政治的に問題とな え合わせると、このセッションか などの、きわめて核心にふれた問 電炉建設に対する資本表下がむだ と思われる。 代表や民間代表からなされるもの

# 政策セッション

はならない政策問題は多い。第三 のうちでとくに重要視されなくて 者補償や原子炉敷地基準問題もそ に推進するために解決されなくて も、日米間の原子力産業を協力的 金融問題や燃料の問題を別として

協力問題セッション

それに国際原子力機関の代表から の問題を中心として、日本、米国 第三者補償については、日本側か とのセッションでは、これら二つ 見解の発表が行なわれる。 にしてゆくかという点にしぼられ 業対産業の協力関係をいかに強力 問わず、今回の合同会議の中心的 技術問題、非技術問題のいかんを

14日から の合金の進歩(神戸製鋼・西 ほか一名)マ金属ベリリウ

れることが望ましいとの見解に立 ち、米フォームラ大会からクリス

原子動力(原子力発電と原子力船) という三つの原則が確認された。 ものと事実とははっきり区別する る、したがって技術的な部門の内 意見の相違も次々に解決し、これ 題についても、さる六月橋本日本 供する③希望および計画にすぎぬ とメーカーの経験を事実として提 絶対に排除する③米国のユーザー 側事務局長の渡米などもあって、 その他政策問題を含む重要な諸問 競争意識は 式製錬の進歩

に対する反省があったからであ 津谷和男ほか一名)▽核燃料 の現状とその問題点(金属な

(東工大・

画を進める上で最新の正確な情報 していた。これは日本側が長期計 は双方の考えが最初からよく一 の趣旨と内容など具体的問題につ ることになった。そこで会議開催 会議のうち技術的な部門について いてさらにつっとんだ話し合いに マス休暇までの時期をあげて再び 月五日から四日間、東京で開催す ーマとした会議が開かれることに

月から三十七年三月までに 却炉の被数材料▽液体金属で 植木一郎) ▽原子炉用新金 高温ガス冷却炉の被覆材料 直弘)▽制御材料(三菱原 ▽燃料の照射効果 る方は、原産原動研治金

ク望刊上ウマ マボ和孝 が表示。 が表示。

解を発表するが、いままでの各種 の代表と民間の代表がそれぞれ見 いては、米国側はAECの規制部 題となった原子炉敷地の問題につ 基準案を公表して以来、とくに問 またことしのはじめ、米AECが を示すかが興味の焦点となるに違 地基準に対して、どの程度柔軟性 点は再度くり返されるだろう。た くの考慮が払われるべきだという 設計上の安全対策に対してより多 ル とのセッションは、それに先立つ 右のような問題に対する合同会議 としての基本線を打ち出し、担互 たに確認することが主要な任務とな ろう。米国側からは、アメリカ国 内における政府産業間の円滑な協 力を促進させるためのこれまでの 経験と、今後の政策が例示される とともに、日米間にまたがる奮懸 来をいかにして解決していくか、 をでいくためにはどのような方断で は同日のえるかどうかなど広範な でいくためにはどのような方断で 間題について、しかも具体的な方 向が打ち出されることが期待され

産 実費で配布 研究資料を

原産原動が冶金タノ 原産原動が冶金タノ 原産原動が冶金タノ の資料をもとにしの最も要領よくの資料をもとにしの最も要領よくの資料をもとにしの最も要領よくの資料をもとにしの最も要領よくの資料をもとにしの最も要領よくの資料をもとにしの最も要領よくの資料をもとにしの最も要領よくの資料をもとにしの最も要領よくの資料をもとにしの最も要領よくの資料をもとにしの最も要領よく ▽最近におけるジルコニウム 資料の内容は次のとおり。

各種タイヤ、チューブ・工業用ゴム製品 営業品目 ラテックス製品・ビニール製品・航空機部品



東京都港区芝田村町5~9 電話東京 (501) 71 11 • 71 21 • 7131 • 7141 工 揚 平 塚・三 重・三 島・上 尾・川 崎



取締役副社長 安 西 東京都中央区八重洲1003 電話(281)0111~10,0121~10.1121~10 大阪と名古屋でも

②原子力関係のサークル活動をし

◎学校行事に原子力を取り上げた

の電子管式低速度型アナログ計算機

子炉動特性模擬装置な

の学習活動に原子力を取り入れて

いるもの | 〇五校八〇・ | %

三%、農業九%、その他九%であ 一答校の内訳は工業四九%、普通三

関西と中部の講演会は、十二月十 | それぞれ原子力に関する映画の上

十一日と十二日に講演会

日午後大阪市北区中之島関西電

映を予定している。

両市で懇談会

◇…日本原子力研究所では、放射

きないので、それまでは技術相談

その他の関係で、来年度からでな

二億七千三百四十万円で落札し

J・H・プレウィツ氏から、固休

なお土地選定委員会は二十四日初 したい希望である。 なお日立以外

できれば十二月どろから工事を始

め、三十九年夏ごろまでには完成

のほど許可された。とのためプレ

スを受ける、乙種の技術導入がこ 置開発に関する技術情報とサービ 物理学研究のための極低温照射装

ウィツ氏は近く来日、約二週間原

RR―3に入れるもので、ヘリウ 研で直接指導する。この装置はJ

ムによる極低温照射である。

査会で審査しているが、原研では た。同炉はいま原子炉安全専門番

中研敷地選定委

教師、一般大衆を対象とするもの

大阪市と名古屋市でそれぞれ講演

にが、大阪市の講演会では、米国

後名古屋市中区大津通りの電通ホ 力本社の関電ホールと、十二日午

ルで開催される。ともに学生、

また名古屋市の講演会でも大阪市

大阪市では関西原子力懇談会のメ

二、原研副理事長森田乕男六氏。

とデービス・ベクテル副社長が講

た。とのうち宗像氏は放中研担当

によって二十一日、日立製作所が

◇…原研のアルゴンヌ国立研究所 川崎重工業は入札を辞退した。

◆…原研のJRRー4は指名入札

を交換した。

備委員会で選定した有力な数候補

...千二百九十七万円、住友商事二億

十七日午前十時二十分から大阪府

設する関西研究用原子炉は、隣接

RI部門の実験を始める。同研究 て全工事をおわったので、年内に 研究所が、このほど原子炉を除い

九千百七十万円、三麥原子力三億

六千八百九十万円であった。また

会合を開き、これまで土地選定準 の入札価格は、日本原子力二億八

関西炉問題は完全に解決

ステーソン氏、ベクテル副社長W 原子力平和利用基金理事E・B・

ケネス・デービス氏の講演が決

一談会を開く。米国側の出席者はま

正治、京大教授桜田一郎、名工試 会長田代茂樹、住友化学社長土井

だきまらないが、日本側からは、

を招いて、午食を共にしながら懇

た米フォーラムのスピーカー数氏 会と同じ日に、合同会議に出席し

> とになり、二十一日このメンバー るため土地選定委員会を設けると たって、総合的な見地から検討す

査として、さる九月から「学校に

して回答を依頼したが、回答数は

一三一校、約三八%であった。回

九校を加えた三四二校を任意抽出

子力産菜開発長期計画の検討をお一日本側から送られた正式提案は 期計画の目鼻がつき、原産でも原一る。このため昨年十月二十六日、

に当っており、計画を推進する見

当然であるし、米国側にも原子力」なったのである。

りは十二月十日。

曾

を過度なキャンペーンに使うこと

演会を行なう。なお一般の来聴も歓迎する。 きたる十二月五日から日米原子動力会議の開かれるのを機 とするもので、午前は第一部研究発表会、午後は第二部講 を交流して、今後の原子力平和利用普及促進に役だてよう 識の啓発や高揚をはかると共に、原子力教育関係者の経験 技術振興財団が後援する。この会は背少年学徒の原子力知 **両原子力産業会議、それに文部省、科学技術庁、日本科学** 会」が開かれる。主催は日米両原子力平和利用基金と日米 九時三十分から午後五時まで「原子力平和利用と青少年の

れる。プログラムは次のとおり。 普及に関する説明と報告が行なわ 午前九時三十分から正午までの第 | 用基金の海外留学生として米国に 第一部 ①あいさつ=日本基金 部研究発表会では、原子力教育 活動報告—日本基金③講演「原 ②日本原子力平和利用基金事業 校における研究サークル活動の 育の実情報告=高校教職員⑤高 氏の高校における原子力学習教 で約四年間燃料サイクルの問題に 渡り、マサチューセッツ工科大学 一報のように、青少年に対する原子 重点をおいて研究、さる十一月四 力知識の普及と教育活動の予備調 日本原子力平和利用共命では、既 | 九校、農業高校四四校、その他 八割は学課で教育 高校の原子力活動調

では、原子力の平和利用に関する また午後一時三十分からの講演会 昭和三十三年日米両原子力平和利一校一八〇校と、これに普通高校九 んどの調査では比較的原子力教育 どそのとりまとめをおわった。と一った。回答の概要は次のとおり。 おける原子力学習研究活動アンケ に熱心であると考えられる工業高 ート調査」をしていたが、とのほ

上甲午前は教育の研究発表

の工業利用」(カラー、一時間) 長・デトロイト・エジソン電力 子力発電について=米基金理事 氏⑤映画「ラジオアイソトープ 社長ウォーカー・L・シスラー 理事・前ミシガン大法学部長E 生植松邦彦氏③原子力平和利用 と原子力教育について=米基金 ・ブライス・ステーソン氏④原

日帰国した人である。プログラム 第二部 ①あいさつ=日本基金

に建設していたナイグ総合研究所 日本原子力事業で昨年九月十七日一一月二十一日午後、官民関係者五 から、川崎市末広町の県営埋立地

ち新設予定校に共通している点は 規に行なおうとしているのは二〇 るもの一〇三校七九% ④原子力関係の査料を購入してい 継続することを予定しており、新 従来どおり物理、化学などの中で したもの九〇校のうち、五六%は

%、残りは研究中である。とのう | その他学校行事に関する七一校の ことのあるもの六一枚四七% ーマを加えることを考えている。

| 回答では、ほとんどが何らかの形 ついて回答したものは五二校であ これと共に今後のサークル活動に を始めるととを研究または計画し で原子力を取り上げることを希望 クラブ活動に、新たに原子力のテ ずれも従来からある自然科学系の ており、新設は数件で、残りはい ったが、うち二五校は新たに活動 どを組み合わせることで、原子炉

二十一日関係者に披露

第二期の工事を完了したので、十 (所長石川潔専務) が、第一期と 九千四百平方がを借り受け、うち 約五万平方以に十一億円で建設し 同研究所は東芝電気の土地約九万 たもの。いずれら鉄筋

グ計算機がある。これ おもな設備としては、 本館(千九百七十七平 子管式低速度型アナロ まず本館に東芝で製作 工学実験棟が加わる。 なお近く第三期工事に コンクリート造りで、 した、わが国最大の電

写真は東芝で製作したナイグ総合研究所

子力委員である。 石井照久、北大教授金沢良雄、

のバンデグラフ式粒子加速器、常 ガンマ線照射装置、二メガポルト 化学反応と固体物性の研究が行な 機などがあって放射線照射による 光光度計、インストロン材料試験 磁性共鳴吸収装置、赤外線光電分 使用できる。放射線研究棟にはコ などの自動制御系の解析や設計に バルト6三千キュリーを装備する 応と中性子物理の研究や特殊な民 速装置、二五六と三〇チャンネル われるし、核物理研究棟には四メ また東芝が政府の補助金を受けて ガポルトのバンデグラフ式粒子加

製作しているスイミングプール型 懇談会で問

| で、軽水減速・冷却型、最大熱出力 子炉とセミホットセル、ジュニア 百KW、炉心をブールの上から監 に入る。燃料のほかは全部国産品 だちに内部の組み立てを開始、二 いる。この埋め込みがおわればた ンクリート打ちを始めようとして 原子炉を納める原干炉棟では、す一 実験などができる。勤務研究員は 反応、短寿命のRIの製造や遮蔽 視できるのが特徴である。との原 れる部分は組み立てをおわり、コ しての物理実験、試料照射による セルなどの設備で、原子炉を利用 月中におわって三月早々臨界実験 でにコンクリートの中に埋め込ま 監 五十五、生物系二十二となっている。 一方大学側もきコーカめて積極的で、原研共同利用運動で、内訳は物理系三十七、化学系で、内訳は物理系三十七、化学系で、内訳は物理系三十七、化学系ので、内訳は物理系三十七、化学系ので、内訳は物理系三十七、化学系ので、内訳は物理系三十十となっている。 究成果発表会 放射能調查研

題整理

二十八日放医研で開

原子力委従業員災害補償に

場にある人々で問題点を整理する ととにした。原子力事業による第 を検討するため懇談会を設置する 原子力事業従業員の災害補偿問題 ことになったもの。第一回の懇談 のさい労使のいずれにも片よらな 虚することになっているので、こ 三者の災害補償については、先に 原子力委員会は十一月二十二日、 い、学者、官庁などの中立的な立 運輸省船員局長若狭得治、厚生

会は三十日開く。懇談会のメンバ ーは次の十一氏と有沢、西村両原

申し込み多数 放研究室に

一橋大教授吾妻光俊、千葉大教 すでに第一原子力グループと東海 の研究室を用意して発足したが、 る十月から研究六棟の一部に、ホ ット六スパンとコールド六スパン ために開設した開放研究室は、さ 原研東海研究所で学界と産業界の

原研・十月から開設

準備連絡室を設置

◇…東急原子力コンビナートが川 のため大学側では、一時中止して の反対運動に終止符を打った。こ 崎市王禅寺に建設していた原子力 の起工式を行なう。(この項朝日 開、十二月初めどろ現地で原子炉 いた基礎工事を十一月下旬から再 理に理研主任研究員山崎文男氏を環境放射能特別一放射線等別部会を開き、部会長に放床が開き、部会長に放展研所長塚本岛南氏、部会長になる関連を開き、部会長になる関連を開き、部会長になる場合の環境を対象を表している。 決定した。



学、醸造会社と協力、原子力化学 子力開発に利用するとともに、化 武蔵工大の実験施設、東急系の原 所はトリガ2型の原子炉を設置、 1(火)原子力知識普(十一月十一日~二十日 運月別七岁日

Westinghouse との技術提携認可! W社が設計・製作したヤンキー原子力発電所 前九時三十分から午後四時四十五 前九時三十分から午後四時四十五 分まで、千葉市黒砂町の放医研講 堂で第三回放射能調査研究成果発 芸会を開く。今回発表される論文 は二十六編で、これを五部に分け て討論するが、ほかに午後一時か ら一時間、放射能調査はいかにあ るべきかをテーマにしてシンポジ MITSUBISHI

三菱原子力工業株式會社 三菱日本重工業株式會社 新三菱重工業株式會社 三菱造船株式會社 三菱電機株式會社 三菱化工機株式會社 国だけあってなれたもので、大雪

スチングハウス社副社長)=一九

(米国原子力産業会談会長、ウェ

マチャールス・H・ウィーバー | た。一九五三年、米フォーラムの創

ア社副社長となる。

ニオン・カーバイド・ニュークリ

ちおもな者の略歴は次のとおりである。

(敬称略)

とんどの<br />
日米合同会<br />
識には、<br />
米国から<br />
約六十名<br />
出席するが、<br />
そのう

合同会議に豪華な顔ぶれ

ソン大学卒業後、一九二五年にコ

ネル大で工学博士号を受け、ナ

努力し、初代会長となる。

マレオナルド・ライクリー(エ

三年米国原子力産業全議の設立に 一九五一年以来同社社長。一九五 社副社長、バプコック・アンド・ |

ワイルコックス社重役)=ダビド

入社、発電所主任技術者となる。 へて、デトロイト・エジソン社へ一入社。

三六年ペンシルバニア大学電気工

(ゼネラル・ダイナミックス社副

マフレデリック・ド・ホフマン

子力委員会委員・スタンダード・

▽ロバート・ウイルソン(米原

大学を卒業。一九四七年米AEC

取締役)=シカゴ大学、ミネソタ バスコサービス社原子力技術担当

九五五年以来同社副社長。 グループの直接責任者となる。

オイル社会長)=一

九五八の第一

なる。のち一九五五年にエバスコ

にはいり、原子炉開発部長補佐と

になるからです。道路の除雪は北

までの除雪は各人の負担ですから

車庫から道路

学科卒業。卒業後ウェスチングハ

子力計画に参加、現在上下両院合

大雪直後は自動車を車庫から道路

に出すだけで一日かかってしまい

九五五年副社長となる。六〇年十 部長、原子力第一部長を経て、一 ウス社に入社、船舶・航空機販売

一月から米国原子力産業会議会長

産業会議理事・ベクテル社の科学

マケネス・デビス(米国原子力

=コーネル大学機械工学科卒業。

九二二年以来デトロイト・エジ

エジソン電力調査委

(デトロイト・エジソン社副社長) マアーサー・グリスウォールド

子力プラント全体の計画設計の監

題委員長。

コ金属研究所を創立したほか、原 社に入社、取締役となる。エバス

督としてサイト選定に助言を与え

否やの問い合わせの電話をかけま ましたが、早朝から学生が休講や

原子力産業会議事務局長)=デポ

をへて、 一九五八年米 AEC原子 T卒業。 カリフォルニア大学教授

会国立協会メンバーなど兼任。 **<u>回会委員長、</u>**與造業者原子力委員

マウオーカー・シスラー(米国

、業後エール大学で理学博士号を得

年より現職。

マプライス・ステーソン(米国

る。ビキニの核実験に参加。一九

スチングハウス社取締役原子動力

大学電気工学科卒業。一九五三年

術担当副社長) =カリフォルニア

(ゼネラル・エレクトリック社技

マフランシス・マッキューン

業会議理事。

GE社原子力生産部長。一九六〇

マロバート・クリーガン(ウェ

炉開発部長になり、のちベクテル

▽チャールス・ロビンス(米国

今年の春の雪の時も休講になり

となる。

うので、<br />
私など一時間ぐらいもひ

きりなしに学校に電話してみま

大学で研究を重ね、のち・ウオー 一大学、シンシナチ大学、シカゴ

**100** 

雪のため学校にこられなくて休講

の多数が郊外に住んでおりまして

**こびです。といいますのは先生方** 

す。こうなりますと学生は大よろ まして時には一片近くにもなりま せんが、例年春先にドカ雪が降り

ともあります。あまり雪は降りま

方にあたりまして冬の寒さは格別 いますと札幌よりももう少し北の で共同研究を行な

いつつもお互にそ

とはいろいろな面

りますが、MIT

ります。この町に

は同じく有名なハ

-バード大学があ

の名をはりあってきております。

との大学のある場所は緯度でい

夏は暑さを逃れて多数の人々が一

ツ工科大学は、こ たマサチューセッ

し傾立百年語念

四年間を過し

回留学生とし

ずしかろうと考え

を行なった大学で

私が日本原子力平和利用基金の M T O 変化に富んだ 四季 動車を雪の中から掘り出しスキー は現金なもので超人的な努力で自 とう書きますと夏はさぞかしす

河をへだてて北側 市からチャールス のようにポストン 皆様もよくご承知

にある小さな町ケ

ノブリッジ市にあ

度が高いときてお りますのでたいへ を東にひかえて湿 え、しかも大西洋 華氏九十度をこ が、事実はさにあ るかも知れません られる方がおられ らずで現は気温が

になるというおもしろい規則があ るほどです。 ば次の日はお休み 温度が三日間続け 華氏九三度以上の んな暑さです。特 ない部屋が多く にハーバード大学 しても建物が古い にしてもMITに けに冷房装置の

すごす大統領を見たいという観光 とで海水浴客、特に週末をここで ネディ大統領の夏の別荘があるの ッドは水が比較的暖かいのと、ケ 切のようです。特に自動車をかっ みに集っているといったほうが適 るといった状態で海水浴というよ て一時間あまりで行けるケイプコ

好の気候です。ポストン近辺のハーへんくつ大学とでも訳せましょり現在では工学部のほかに理学部、 が赤や黄にそまる秋は、行楽に絶 客と砂糖カエデの木 (メープル) 客とでこの夏は大にぎわいでし 雪と氷がとけて青草の芽を出す プ・タッチト (マサチューセッツ は セッツ・インスティチュー もっぱらMITはマサチュー

海辺に集りますが、ポストン近辺 ントなどの州へのもみじ見物は楽 しいものでした。 総合大学の性 ニューハンプシャー、バーモ

大学院のディーンをしております

設されておりまして、それぞれ活

音楽部、食品化学部が順次併

発な研究を行なっています。図書

によりますと、彼の学生時代など ヘイゼン教授が私に語ったところ

館も工学図書館のほかに総合図書

大学の近くにある有名なポストン

イキング、車をかって遠くメイ

う)の略だろうと呼ばれておりま

経済学部、工業経営学部、

を略してMITとよんでいるわけ ましてマサチューセッツ・インス 科の工科大学として出発しており ですが、学生があまりよく勉強し ティチュート・オブ・テクノロジ ますのでポストン近在の学生間で MITはその名のごとく最初単 格をそなえる など友達にかくれて、そっと音楽 れていたそうです。音楽好きの彼 MITの学生間では恥だと考えら

を作る必要があるということから 合的な知識をもち情操豊かな人間 の工学者を作るのでは駄目で、総 もに変わりまして、特にカチカチ しかしこれらの風潮も時代とと

学部は縮小されてきております。 れとともにハーバード大学の工

の知るかぎりではただの一校、

大学の構内にあるMIT炉 するのは馬鹿気ているというわけ る工学部を拡大してMITと競争 と競争するのは馬鹿気ているし、 来総合大学としてハーバード大学 といいますのはMITとしては将 で、お互いに協力しようではない ハーバード大学にしても金のかか

5型、出力1000KW)

大学院コー 原子核工

かということになり、 由に聞くことができるようになっ バードの学生はMITの講識を自 ITの学生はハーバードの、 になり、さしずめMITとハーバ のとりようしだいでどちらの大学 からでも卒業証書がもらえるよう ております。しかも欲すれば単位 いでしょう。 ド大学は兄弟校といってもよろ その分布を見ますと、やはり工学 学院コースにはいっております。 ますが、同じ工学部出身でも学部 大学卒業者が原子核工学専攻の大 部出身の学生が主流をしめており

専攻してきた学生ですが、変わり 攻してきたような人もあります。 たねでは経済学や工業経営学を専

さて話を原子核工学にうつしま「特にMITではおもしろい入学許 ほとんどすべての工学分野をカバ ーしているといえるでしょう。 における専攻は実にまちまちで、

一学は

ンウエルス・エジソン社副社長) 後コモンウエルス社に入社。一九 =アイオワ州工大電気工学科卒業 ▽マーレイ・ジョスリン(コモ ミシガン大学教授を経て法学部長 となる。一九五九年米基金創立以 ミシガン大学法学部を卒業。のち

持っている。米フォーラム補償問 では代表的な人物。二十の特許を 五一年にはAEC下の原子力研究 大学卒業。GE社の原子力開発面 レクトリック社顧問)=アイダホ ▽D・シュルツ (ゼネラル・エ 同アトミックス・インターナショ メリカン航空機会社にはいり、五 計画に参加。一九四六年ノースア 気工学科卒業後ハーバード大、M ナル社社長)=レンセラー工大電 スアメリカン航空機会社副社長・ ITの研究員を経てマンハッタン 五年副社長となる。米国原子力産 ▽チャウンシイ・スター (ノー)

なり、 究所にはいり、プルトニウム生産 ちMITを経て、ロスアラモス研 ンダービルト大学理学部卒業。の 子力委員会原子炉開発部長)=バ マハンク・ピットマン(米国原

初化学工学科の一部として出発し MITの原子核工学科は最 一方式をとっております。原子核 一方式をとっております。原子核 一名の卒業者があるとしますと本 年の入学許可数は十二名となりま す。トコロテン的押出し方式はと っておりません。ですから入学年 度は同じでも研究テーマによって を業年次はバラバラですので日本 の大学のような先輩後灌園設は学 生間にありません。

おりました。一九五九年度から独 日本の大学と多少ことなっており たものですが、現在では多数の原 立しまして原子核工学科となり現 攻学生という長い名前でよばれて 子核工学専攻の日本人学生を迎え して、何となく心細く思ったりし ておりまして、私の湾米しました 当時は日本人学生は私一人だけで 時はまだ化学工学科原子核工学専 米国での原子核工学教育体系は

書館をもっております。

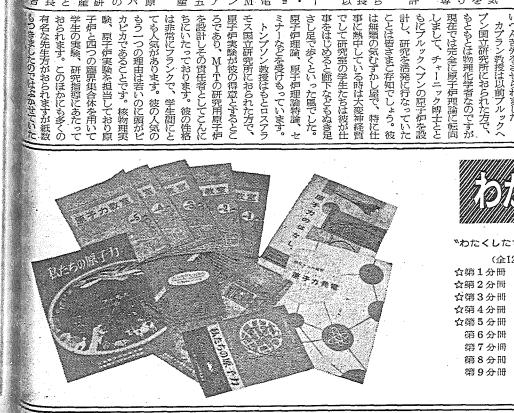
らに各教室がそれぞれ完備した図 済図書館の五大図書館があり、さ 館、人文図書館、音楽図書館、経

大学の形式をとりつつありますが

このようにMITは次第に総合

学だけです。ほかはすべて大学院 ますようで、学部をもつ大学は私 コースでして工学、理学部系統の ストン近郊にあるローエル工科大 主任数授はベネディタト先生で例のマンハッタン計画ではウランののマンハッタン計画ではウランの原子核化学工学、原子炉設計、セミナーなどの講議や担当しておられます。彼は私の指導教授でもありましたが、非常な完全主義者で討論でも「新な完全きらわれ、私などたいった言葉をきらわれ、私などたいった言葉をきらわれ、私などたいった言葉をきらわれ、私などたいった言葉をきらわれ、私などたいった言葉をきらわれ、私などたいった言葉をきらわれ、私などたいった言葉をきらわれ、私などたいった言葉をきらわれ、私などたい。 いへん苦労をさせられました の一部を簡単にご紹介します

名な教授陣 いずれも著



"わたくしたちの原子力教室"

(全12分冊 ☆印は既刊) ☆第1分冊 原子力入門編 (30円)

☆第2分冊 核分裂編(25円) ☆第3分冊 原子炉の原理編 (30円) ☆第4分冊 原子炉材料編 (30円) ☆第5分冊 研究用原子炉編 (30円)

第6分冊 発電用原子炉編 第7分册 肠力利用編 第8分冊 放射能綱 第9分冊 アイソトープ編

第10分冊 加速器編 第11分冊 核融合編 第12分冊 世界の現状編

"私たちの原子力"(30円) 、原子炉のはなし、(20円) 、原子力のはなし。(50円) 《原子力発電のはなし》(50円)

刊行 日本原子力平和利用基金

東京都港区 芝田村町1-1 日本原子力産業会議内 TEL (591) 6121